「トーマス、ダブルデーレイ」著

英國財政史

自第一章
至第二章

2964

414
A 1436
1

英國財政史原序

余今マ汝カ最モ年少ナルカ故ニ是書ヲ撰シテ以テ汝ニ與ヘ併テ汝カ如キ他ノ年少輩ノ觀ニ供セント欲ス然レ𪜈余ヤ汝輩ノ是書ヲ必ラスシモ今日ニ披見センコヲ冀望スルモノト思フ勿レ夫レ人年少ノ時ハ自カラ年齢相當ノ事業好尚アリテ是書論述スルカ如キ論題ヲ考究エ夫スルニ至ラサルベシ是レ余レ能ク之レヲ知レリ固ヨリ然ルヘキノ理ナリ然レ𪜈斯ノ如キ年少ノ情態ハ永久持續スルコナク年齢ノ長スルニ從テ自カラ消滅シ別ニ新開ノ思想ヲ來タスコ速ヤカナルモノナリ

汝輩ハ皆ナ一ヶ業ニ從事スルノ人ナリ𪜈ハ今日未タ其事ナクモ後來必ラス然ラサルヿカラサルナリ已ニ商業ニ從事スル日ヲ必ニス同業ノ人ト交接ノヘシ其接

峯源次郎譯

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

スルニ當テ今日ト雖モ現今ノ務上ニ小テ竊ニ
堪サルノ苦情ヲ鳴ラスモノニ逢フヘシ且ツ時事ノ清勢
ニ就テ苦情愈々長シ終ニ咨嗟怨憤ノ聲汝少年輩ノ耳
ヲ激動シ汝輩ヲシテ方今治平ノ名アル我國ニ在テ抑モ
何等ノ源因アレハ斯ノ如クナルヤト一時耳ヲ欹テ、悚
然タラシムルコアルニ至ルヘシ

汝輩年齢ノ長スルニ從ヒ終ニ其胸底ニ時事ヲ考究スル
ノ念慮ヲ生スヘシ而シテ天然雍熙ナル斯民ヲシテ方今
憂慮苦心ニ沈淪セシムルハ何等ノ源因ニ屬スル乎又タ
福運ニ開達スヘキ天約ノ人間社會ヲシテ漸々斯ノ如キ
苦域ニ臨マシムルハ果シテ何等ノ源因ニ出ツル乎ノ疑
惑ヲ生スルニ至ルヘシ是ニ於テ之レヲ人ニ質スルモ或
ハ是レニ答フルニ荒唐空漠ノ說ヲ以テスルモノ之レア
リ或ハ愈滋々惑ヲ孳生スルノ說ヲ以テスルモノ之レア
リ或ハ時勢ノ悪シキカ故ナリト云ヒ或ハ自由貿易ナキ
カ故ニ國力壓迫セラルヽニ由ルナリト云ヒ或ハ製造ノ
過度此ノ困難愁苦ノ根本ナリト云ヒ或ハ物産ノ不足ヨ
リ生スト云フモノアルヘシ然レトモ右ノ諸說悉ク汝輩ノ
服膺スヘキ明解ニ非ラスシテ汝輩ハ半盲半明半信半疑
曖昧糢糊ノ間ニ困却シ煩悶フル煩悶ヲ覺フヘシ此時ニ於
テ汝輩自カラ是書ニ質セハ其解キ難キノ惑ニ於テ終ニ
釋然タルヲ覺フヘシ蓋シ是書ハ汝輩ノ耳目ヲ娛シマシ
ムルノ具ニ非サルナリ

汝輩苟モ是書ヲ就テ時変ノ來由ヲ詳ニスハ我カ英國ヲ
シテ今日ノ衰敝敗頽ニ至ラシメタル所以ノ源因森然ト
シテ具備シ序アリ條アリ以テ我國財政變遷ノ顚末盡

スニ足ルヘシ又タ是言ハ事跡錯綜シタルカ故ニ外ニ或ハ解シ難キカ如クナレ𪜈本来平易ヲ旨トスレハ刻苦勵精ヲ要スルニ及ハス稍ヤ勉強ヲ加フレハ通暁スルニ難カラサルヘシ

然リト雖𪜈汝輩是書ヲ讀ニハ業ヲ首端ヨリ肇メテ丁寧ニ進行セサルヘカラス能ク一歩ヲ確立シテ他ノ一歩ヲ移スヘシ殊ニ第一歩ノ地(即チ是書ノ第二章ニ論述スル貨幣ノ性質利用及ヒ顕像ノ論是ナリ)ヲ全ク了解暗熟スルノ後ニ非サレハ第二歩ノ地ニ進行スヘカラサルナリ此ノ暗熟ノ政事家ニ必要ナルハ猶ホ乗數表ノ算術家ニ於ケルカ如ク然リ之レヲ欠ケハ又タ他ニ如何共スヘカラサルナリ而シテ「セークス、ピール」ノ詩句ニ所謂ル「ゼウリー、ハルト、オフ、ヒス、マイステリー」(按スルニ其要訣蘊奥ナリト云フ義歟)ト

一般ナリ此故ニ汝輩此ノ第一歩ヲ明解暗熟セサレハ寧ロ是書ヲ讀マサルヲ勝レリトス蓋シ此ノ第一歩ヲ明解スルニ至レハ他ハ例シテ甚タ容易ナリトス且ツ國債発起者國債論者皆ナ通貨ノ性質利用ニ暗ク偽幣(按スルニ紙幣ヲ指ス)ノ便ニ惑溺シ漸々衰運ニ傾キ終ニ今日ノ困難ヲ来セシ所以課税愈ヽ重クシテ餓莩相踵キ邪曲百出終ニ今日ノ澆季ニ到ラシメタル所以英國執政者皆ナ不學無術ニシテ人民ヨリ其維持ヲ委托セラレタル國債政策ヲシテ部テ其處置宜シキヲ得サルニ斃レシメ而シテ政府人民共ニ今日此ノ禍害ノ深淵ニ陥没スルノ不幸ニ逢遇セル所以ノ理由悉ク汝輩ノ豁然貫通スル所トナルヘシ

汝輩宜シク右國運衰頽ノ源因ヲ歩々踪跡スヘシ然ルトキハ曽テ自由活潑幸福富疆ナリシ我カ國民ノ今日衰頽シ

テ無氣無力廉耻ナキ奴隷ノ情狀ニ至リシモノハ蓋シ高利子錢家輩ノ所為ニ因由スルヲ知ルヘシ而シテ苟モ良心アルノ人ハ之レヲ視テ慷慨悲憤切齒扼腕長大息セサラント欲スト雖モ得ヘカラサルヘシ蓋シ高利子錢家輩ハ朐日モ其顏ヲ照ラスヲ耻テ惠風モ其面ヲ吹クヲ屑トセサル所ノモノナリ

右ノ外猶ホ一言ノ以テ汝輩ニ告ケサルヲ得サルモノアリ即チ是書中論述スル所ノ事項皆ナ平易ニシテ之レヲ解スルニ難カラスト雖モ余是書ヲ著述スルニ當リ頗フル其史料ヲ拾フニ困シメリ蓋シ此史料タルヤ旧來諸書ニ散逸シテ殆ント捜索スヘカラス從テ此史料ノ真價ヲ知ル人モ知ラサル人ト共ニ自カラ等閑ニ付セリ而シテ復タ此史料ノ保存ニ注意セサルニ反ヘリ故ニ今マ諸書ニ就テ之レヲ拾掇シ集メテ以テ是書ヲ成スニ至ルモノハ実ニ容易ナラサリキ故ニ是書ニシテ世ニ稗益スル所ナシト云ハヽ已マン若シ或ハ少補ナキニ非ラスト云ハヽ其効殊ニ此史料ノ集成ニ在リトス

抑モ社會ノ健康安寧ナル時ニ在テハ是書ノ如キモノヲ世ニ公ニスルモ必ラス人心ニ影響スルニ足ラサルヘシ然リト雖モ今日ノ如キ世道人心ノ敗壞スル時ニ在テハ汝輩必ラス其民心ニ影響スルノ效アルヲ知ルヘシ從テ老人ノ年少ニ授與スルモノハ蓋シ是書ニ如クハナキヲ悟リ果然乃父ノ実子タルノ名ニ羞ツルヲ要セサルヲ信スヘシ

一千八百四十七年一月三十一日

トーマス、ダブルデー

男某

知之

一千八百五十九年再板

六十年　三板

英國財政史

目次

第一章
小引
第二章
貨幣使用ノ事
貨幣性質ノ事
貨幣便益ノ事
貨幣顯像ノ事
第三章
國債性質ノ事
第四章
一千六百八十八年ノ大変革ノ事

英國銀行設立ノ事
國債濫觴ノ事
第三世「ウヰリヤム」治世ノ終末ニ於ケル國債金額ノ事
通貨流通高ノ減縮シタルトキニ於ケル其價格ノ事
租稅院紙幣發行ノ事
「ウヰリヤム」王逝去ノ事

第五章

女皇「アン」治世ノ理財史ノ事
英國銀行進歩ノ事
「ロルド、ボリンブロー」氏英國銀行制法實地經驗報告ノ事
王位相續戰爭ノ事
女皇「アン」逝去ノトキニ於ケル國債ノ事
第一世「ジョージ」治世理財史ノ事
南海泡沫ノ事
「ジョージ」逝去ノトキニ於ケル國債ノ事
第二世「ジョージ」治世理財史ノ事
「オルポール」氏宰相ニ任セラルヽ事
「カツキン」戰爭ノ事并其軍費ノ事
佛國戰爭ノ事
償債資金積立初度試看ノ事
償債資金積立ニ付キテ「ヒユーム」氏異論ノ事
第二世「ジョージ」逝去ノ事

第六章

第三世「ジョージ」即位ノ事

佛國戰爭一千七百六十三年ニ終ハル事
佛國ト和親ノ時ニ於ケル國債金額ノ事
英國銀行ノ發行シタル拾五封度紙幣及ヒ拾封度紙幣ノ事
平時諸事業進歩ノ事
貧民救助稅增進ノ事
貧民救助法ヲ廢セントスル初度目論見ノ事
貿易困難ノ事
「ロルド、ヒュート」氏宰相ニ任セラル、事
「ポーランド」分奪ノ事
「ロルド、ヒュート」氏民心ニ逆テ無法ノ稅ヲ米國殖民地ニ課スル事
「ロルド、カザム」氏反對論ノ事

米國人民抵抗ノ事
米國戰爭ノ事
「ピット」氏宰相ニ任セラル、事
附同氏ノ制定ヲレタル理財法ノ事
地方銀行進歩ノ事
一千七百九十三年ニ於ケル國債金額ノ事
棉花貿易初起ノ事
英國議院改正案初度建議ノ事

第七章

佛國革命初起ノ事
附其源由ノ事
英國貴族僧侶恐慌ノ事
貴族僧侶人民ノ情意ニ從フ事

民黨王黨和親聯合ノ事
「ピット」氏已ムヲ得ス一千七百九十三年ニ佛國ニ向テ交戰ヲ宣告スル事
資本缺乏恐慌ノ事
附非常破産ノ事
「ピット」氏佛國「アッシグヲート」紙幣ヲ贋造シ且ツ之レヲ減却スル事
五封度紙幣発行ノ事
佛國共和黨成功ノ事
「ペエン」氏人權解ノ事
「ペエン」氏佛國會議ノ議員トナル事
「ピット」氏貿易ヲ隆盛ナラシメンカ為メニ二百万封度ヲ商人ニ貸付クル事

「ペエン」氏英國銀行ノ鎖店ヲ前言スル事
外國侵入警備ノ事
英國銀行ニ關シ恐慌ノ事
附巨額取付ケノ事
一千七百九十七年二月二十七日英國銀行鎖店ノ事
銀行制限條例ノ事
銀行事務檢査委員設置ノ事
紙幣ノ事
一千七百九十七年國債ノ事

第八章

一封度紙幣及ヒ二封度紙幣発行ノ事
紙幣ヲ以テ合法貨幣ト為ス事

右紙幣影響ノ事
製造事業ノ事
物價非常ニ騰貴スル事
物價騰貴ノ影響地主ニ及ブ事
物價騰貴ノ影響年俸ヲ受クル人ニ及ブ事
物價騰貴ノ影響皇俸及海陸軍士官等政府官吏ノ
俸給上ニ及ブ事
穀物價直比較表ノ事
諸商品價直比較表ノ事
紙幣ノ影響金塊價直上ニ及フ事
貨幣消失ノ事
貿易平均景況ノ事
食物ノ價直ヲ以テ給金ノ時價ニ比較スル事
一千七百八十五年ノ給金ト一千八百〇五年ノ給
金ト比較ノ事
共有地ノ事
附其濫觴ノ事
共有地賣却議決ノ事
共有地賣却議決度數ノ事
共有地賣却金高ノ事
一千八百〇三年ニ至ル迄貧民救助税增進ノ事
「ピット」氏退隱ノ事

第九章

「エッヂントン」氏「ピット」氏ニ續テ宰相ニ任セラルヽ
事
「エッヂントン」氏「アミン」ノ講和ノ事

銀行紙幣ノ下落ヨリ生シタル談交換ノ事
一千八百〇三年三月ニ至ルマテ再度銀行制限條例ヲ實行スル事
「エッヂントン」氏償債資金積立ノ事
附其方策不便ノ事
三度ニ銀行制限條例ヲ議定スル事
再度佛國戰爭壞裂ノ事
「ピット」氏再度宰相ニ任セラル、事
「オーステルリヅ」戰爭ノ事
「ピット」氏卒去ノ事
「ペルスバル」氏続テ宰相ニ任セラル、事
議院ニ於ケル經濟家意見ノ事
金銀塊騰貴源由ノ調査委員ヲ撰任スル事

附其僚員并紙幣ノ下落ヲ論陳スル其報告ノ事
「バンシタート」氏英断ノ事
「ロルド、キング」氏向後銀行紙幣ニテハ地租ノ拂ヲ受ケザル「ヲ其地主ヘ報知シタル事
「スタンホープ」氏英断決議ノ事
宰相「パーシバル」氏銃殺ニ逢フ事
佛國戰爭終局ノ事
一千八百十五年ニ於ケル國債ノ事
附貧民救助税狀況ノ事

第十章

國債巨額ノ事
附不換紙幣ノ影響ノ事
棉花製造局非常增進ノ事

國債及機械財本ヲ增加スルノ利益ヽル事
資本金皆中等社會ニ集積スル事
遺物稅非常增加ノ事
勞業社會衰頽ノ事
經濟家切ニ貧民救助法ノ廢止ヲ論スル事
「マルザス」氏初テ其著ス所ノ貧民救助稅廢止論ヲ
世ニ公ニスル事
附諸經濟家贊成ノ事
「チャプリン」氏貧民救助法改正考案建白ノ事
附其失敗ノ事
一千八百十八年議院ニ於テ「スタルジスボルン」氏
ノ貧民救助法改正建白ヲ採用スル事
犯罪人非常ニ增加スル事

一千八百〇六年以來罪囚入牢毎歲ノ員數ノ事
人民風俗廢頽ノ事
人民風俗廢頽ノ影響國民ノ幸福德義學術文藝上
ニ及ブ事

第十一章

伊國戰爭後國內事物變遷ノ事
人民大失望ノ事
「リバプール」及「カッスルレー」困難ノ事
物價不意ニ下落スル事
佛國ヨリ家畜家禽等ヲ輸出スル事
地主警戒ノ事
農業調查委員設置ノ事
「オーゾルヨング」氏ノ古委員ニ出シタル各時限農

業費用計算表ノ事
委員調査成果ノ事
兵隊ノ警衛中ニ議決シタル穀物保護稅條例ノ事
附其實地經驗ニ於テ功力ノ不充分ナル事
一千八百十五年ニ至タル迄紙幣下落計算ノ事
銀行紙幣報告ノ事
地方銀行設立ノ事
地方銀行ノ發行シタル紙幣ニ関シ劇烈論ノ事
國内一般大困弊ノ事
地方銀行鎖店ノ事
物價ノ下落愈甚シキニ至タル事
金銀塊價格下落ノ事
經濟家處置ノ事

附其委員ノ事
一千八百十九年採用サレタル「ピール」氏建白考案ノ事
附其決議條目ノ事

第十二章

「ピール」氏ノ建白シタル紙幣交換考案ノ反對論ノ事
「コベット」氏書ヲ「チルニー」氏ニ贈リ貨幣ヲ以テ紙幣ヲ交換スルノ利害ヲ論シタル事
古紙幣交換考案議決ノ成果ニ付テ「コベット」氏前言ノ事
附當時ノ人皆愚昧ニシテ却テ其前言ヲ誓嗤スル事

右考案決議成果ノ事
犯罪人增加ノ事
紙幣贋造人處刑ノ事
「マンチュスタル」慘狀ノ事
六條例議定ノ事
政府益理財ノ困難ニ逼マル事
理財困難回復政畧ノ事
附其失敗ノ事
「ジョージ、ローズ」氏初テ貯蓄銀行ヲ創成ス事
附同氏目的ノ事
右政畧不正ノ事
右政畧外面好結果ノ事
貯蓄銀行設立ノ為メ隱然國債增加ノ事

各國互相條約主義政畧ノ事
附其源由ノ事
航海條例廢止ノ事
運漕船航海比較表ノ事
普國同盟ノ事
外人稍英國ノ衰頽ヲ知ル事
「アングロレム」侯西班牙ニ侵入スル事
附其影響歐洲全土ニ及ブ事
英國銀行其紙幣及割引ヲ減スル事
物價總下落ノ事
附右ニ由テ生スル困弊ノ事

第十三章

一千八百二十三年議院會議ノ事

穀物及諸商品價直下落ノ事
附上下一般困弊ノ事
「チャーレス、エ、トムソン」氏歎願書ヲ下院ニ出ス事
附其論説ノ事
「ウェヌテルン」氏大ニ農業ノ困弊ニ関スル動議ヲ主張スル事
附其失敗ノ事
十一年限リノ一封度紙幣及二封度紙幣ノ通用ヲ延期センカ為ニ上下議院小数紙幣通用條例ヲ議定スル事
「ウェステルン」氏精密ニ「ピール」氏建白考案ノ採用ヨリシテ生シタル成果ノ確証ヲ擧クル事
「アングルレム」侯西班牙ニ侵入シテ其國憲ヲ顛覆スル事
小数紙幣通用延期成果ノ事
物價非常ニ騰貴スル事
附投機商ノ事
外國債巨額ノ事
「ロビンソン」氏租税院長ニ任スル事
附同氏暗愚謬誤ノ事
貿易平均変化ノ事
附一千八百二十五年恐慌ノ事及其成果ノ事
「ロルド、リブルプール」氏及「カンニング」氏卒去ノ事
「ゴッドリッチ」氏初テ合本銀行ヲ創立スル事
「ウェルリントン」氏宰相ニ任セラルヽ事
一千八百二十九年小数紙幣ヲ減却スル事

田地放火ノ事
王黨權ヲ失スル事

第十四章

民黨權ヲ執ル事
憲法改正考案爭論ノ事
一千八百三十二年五月諸卿相職ヲ辭スル事
「ウエルリントン」氏總理官ニ任スル事
巨額ノ紙幣ヲ交換セシカ為ニ英國銀行ニ取付ニ
來タル事
民黨九日ノ内ニ權ヲ回復スル事
英國銀行紙幣ニ合法通用ヲ許ス事
附其影響ノ外國ニ及ブ事
「ビヤンナ」條約違背ノ事

「クラコウ」占有ノ事
米合衆國和蘭王ノ「カナダ」境界紛議裁斷案ヲ拒ム
事
穀物ノ價直下落ノ事
貧民救助法改正案ノ事
合本銀行增進ノ事
附其發行紙幣ノ影響ノ事
棉花及鉄道ニ於ケル投機ノ事
大統領「ジヤクソン」氏ノ政策ノ事
米國貿易衰頽ノ事
政府歳入大缺乏ノ事
民黨衰微ノ事
「ピール」氏政策ノ事

第十五章

「サー、ロベルト、ピール」氏政治ノ事

同氏ノ陳述シタル歳入缺乏計算ノ事

再度産業税ヲ実施スル事

附其不正ノ事

海関税省減改正ノ事

穀物保護税法軽減改正ノ事

王黨誤解ノ事

銀行撿査委員設置ノ事

「ギルバルト」氏銀行調査報告ノ事

銀行條例設置ノ事

馬鈴薯減却ノ事

「アイルランド」饑饉ノ事

穀物保護税法廃止ノ事

「サー、ロベルト、ピール」氏辭職ノ事

第十六章

國内現状及将来ノ事

第十七章

将来ノ期望ニ関スル意見ノ事

英國財政史

峯源次郎　譯

第一章

総論

夫レ人苟モ世ニ所謂ル知識ナルモノヲ得ント欲セハ必ラス先ツ其自國ノ歴史ヲ通曉セサルヘカラサルナリ

専制野蛮ノ國ハ措テ論セス較ヤ自由ノ針路ニ向ヒ民政ニ改進スルノ國ニ生レテ其國ノ歴史ヲ知ラサレハ或ハ能ク其國民タルノ義務ヲ盡ス能ハサルヘシ又タ其歴史ヲ通曉セサルモ議院及ヒ其他民會ノ議員ヲ撰擧スルニ、其被撰者ノ材德ト其被撰者ノ主張スル政策ノ是非利害ヲ分別スルハ難カラサルヘシト雖モ自カラ其國是ニ関シテ所見ヲ陳述シ又タ之レヲ実行スルハ能ハル

所ナルヘシ設令ヒ能ク其所見ヲ陳述シ且ツ之レヲ實行スルヲ得ルモ之レカ為ニ一世ノ望ミヲ繫キ輿論ノ肯綮ニ的中スルノ言論ヲ建ツルハ能ハサルヘシ而シテ其千言万語痛論スルモ徒ニ狺々トシテ実効ナキ獵狗ニモ猶ホ及ハス〻トシテ世ノ蔑視スル所トナスヤ其レ明ラカナリ夫レ斯ノ如キ世議ヲ招クハ自カラ重〻スル所アリテ其公言公行ニ自カラ責任ヲ有スルノ人誰カ敢テ之レヲ好マン乎

英國ノ歴史ヲ考究スルノ人今ヨリ一百五十年以前即チ一千六百八十八年ノ大改革以前ニ遡ホルトキハ皆ナ其年代ノ事実タル甚タ簡畧ナルヲ見ルヘシ蓋シ其事實ノ源由及ヒ行為ノ働作タルヤ多クハ其外面ノミヲ記シテ内部ニ渉ラサルヲ以テ其全体ヲ了解スルニ易ク又タ之レヲ記臆スルニ難カラサルナリ、夫レ上世ノ歴史ノ此ノ如ク簡畧ナル所以ノモノハ他ナシ當時財政ノ法未タ精密ニ至ラサリシカ故ニ一百五十年以前ヲ以テ其以後ニ比較スレハ上世ニ在テハ財政ノ事即チ俗ニ所謂國ノ金錢事件簡單ニシテ紛乱錯雜スルモノ少ナク從テ國ノ利害ニ関係スルコトモ亦タ少ナカリシナリ是レ上世ノ歴史ニ在テ其事実行為ノ簡畧ナリシ一大源由ナリ

耶曼(ゲルマン)侵畧ノ時ヨリ「チャーレス」一世統治ノ時ニ開議シタル久年議院(パーリアメント)ト称スル議院ニ至タル迄ハ封建制度我カ英國ニ存在セリ(但シ此ノ封建制度ノ此ノ時限内ニ於ケルヤ概シテ封建制度ト云フト雖モ其実ハ初起ト終末トノ体裁ニ至リテハ大ニ相ヒ同シカラサルナリ蓋シ此ノ内チ多少ノ沿革アリテ其制度ノ模様ヲ変セシカ故ナリ)此ノ

制度ニ在テハ皇俸即チ王若クハ女王并ニ宮内ノ諸官吏ノ俸給ノ為ニ議院（シヤルリスト）ノ課税シテ以テ別ニ備ヘ置クカ如キ金額ハアラサリシナリ、國君ハ自餘ノ各個地主ノ如ク同様其所有地ノ歳收ヲ以テ自カラ生理ノ用度ニ充テタリ然シ其各個地主ニ異ナル所ノ点ハ唯タ其所領地ノ各個地主ノ所有地ニ比スレハ非常ニ廣大ナル一事アルノミナリ蓋シ當時君主ノ侍從卿相判事其他政府官吏ノ俸給ハ盡ク之レヲ右王領地ノ歳收ヨリ支給セシモノナリ

封建ノ制度ニ於テハ右ノ如クニシテ自カラ能ク君權ヲ維持シ以テ定時ニ金穀ノ供給ヲ人民ニ要セサリシナリ、又タ君王及ヒ其臣屬ハ各其所領地ノ歳入（其実益アルモノト空名ナルモノトニ拘ハラス）ヲ以テ其歳費ヲ支辨スルニ足リテ近世ノ所謂ル政府ノ歳入ナルモノヲ課スルヲ要セサリシナリ、夫レ封建ノ制度タルヤ其初起ニ於テハ唯タ貴族ノ特權ヲ組織シ國民保護ニ止マリシト雖モ其盛ナルニ及テハ復タ其関係スル所右ニ止マラサルナリ、乃チ英國ニ於テ総テ土地ヲ領スルハ其國王ノ直接ニ命スルト間接ニ今スルトヲ問ハス概シテ直隷ノ臣屬ナリ之レヲ詳言スレハ「フォルスト、ホルダ」「バロン」即チ「ロルド、オフ、マロール」等ノ如キ從軍ノ約束アル身分ノモノ盡ク土地ヲ領セリ故ニ苟モ土地ヲ有スルモノハ兵役ヲ免カルヽ能ハス海内ヲ擧テ皆ナ兵士ナリ而シテ教會ノ田地ヲ耕スモノト雖モ兵役ヲ免カル、コト蓋シ鮮ナシ（此ノ処ニ教會ノ田地ト称スルモノハ「ヘンリ」八世及ヒ其次王ノ嘗テ教法改良ノ名義ヲ以テ教會ノ所有地ヲ剥奪

セシ以前ニ係ルモノニシテ即チ其教會ノ所領英國全土ノ大半ニ跨カリテ且ツ僧侶カ十分一稅ヲ有セシ時代ナリ故ニ封建制度ノ時代ニ於テハ戰ヲ開クヲ以テ公益ト信スルカ或ハ開戰ノ避クヘカラサルトキハ之レヲ天下ニ公告スレハ兵食立地ニ集マルヲ得ヘシ是レ蓋シ封建ノ制度ニ於テ此ノ王國内ノ土地ハ盡ク食邑(フィーフ)シ其土地ニ住スル人民ハ皆ナ兵役ニ從事スルノ關係アルカ故ナリ此ノ兵役ヲ免カルヽヲ得ルモノハ特リ僧侶ト免役ヲ受ケタル僅カノ都邑人(バルゼス)アルノミナリ抑モ此ノ都邑人タルヤ其住スル城市ヲ防禦スルノ義務アリト雖モ此ノ外ハ封建制度上ノ關係ヲ有セス故ニ世ニ之レヲ自由都邑人(フリーバルゼス)ト稱ス、又タ僧侶ハ如キハ其身ハ兵役ヲ免カルヽヲ得ヘシト雖モ兵事アルトキハ其代人ヲ出サヽルヘカラサルノ義務ヲ有セリ

上文ニ陳述シタルカ如キ事物ノ情況ニ於テハ近來実行スルカ如キ收稅法ヲ要セサリシヤ其レ明ラカナリ故ニ非常ノ用度アルトキハ議院其議決ヲ以テ臨時扶助金(オケーショナールエイド)ヲ國王ニ給ス其形チ臨時收稅(テンポラリータキス)ニ似タリ南來數年ノ後チ貿易品ニ從價稅(アドヴァロレム)或ハ磅稅(パウンデーナ)ヲ課スルノ法ヲ制定シ又タ噸稅(トンテーダ)及ヒ造船用金ト稱スル一種ノ稅ヲ課セリ此ノ稅タルヤ固ト臨時用度ノ為メニ徵集シタルモノナレトモ屢ハ之レヲ実行スルノ後チ終ニ殆ント慣習法(プレスクリプション)ノ收稅トナレリ此ノ收稅ヲシテ國王ノ特權ト為サシト試ミタルコトヽナカラス、又タ土地ヲ領スルモノ次第ニ其數ヲ增シ次第ニ其權勢ヲ振フニ從テ封建制度ノ軍役タル次第ニ変シテ金錢ヲ納メテ之レヲ免カルヽヲ得ルニ至レリ即チ直隷ノ

貴族ハ國王ニ「コッピーホルダー」「ソッケーヂ」「ウヰルレヂーヂ」「フランカルメーン」等ノ如キ僅ニ平民ノ上ニ位スル身分ノ微賤ナル領地者ハ其貴族ニ金錢ヲ納メテ以テ軍役ヲ免カルヽヲ得ルニ至レリ此ノ如ク変革ヲ生シタルハ全ク那曼侵畧ノ時ト久年議院統治トノ間ニアリ蓋シ久年議院統治迄ハ現今ノ所謂ル會計法ト稱スルモノヽアルヲ見ス戦爭ノ時ニ於ケル其重ナル費用ハ封建ノ制度ニ從テ盡ク土地ト其持主ニ分賦セリ其後チ漸々時代ノ經過変遷スルニ從テ種々ノ性質ノ扶助金ヲ商人社會ヨリ強テ徴集スルニ至レリ蓋シ談社會ハ在昔微々トシテ世ニ聞知セラレス國費上ニ就テ出張スルヿナカリシカ此ノ時ニ至リテ大ニ富実ノ勢力ヲ有シ社會ノ面目ヲ改メタリ

然リト雖モ彼ノ久年議院ヲ組織シタル過激ナル議員カ暴王「チャールレス」一世ヲ廃シ自カラ國政ヲ執ルヤ直ニ封建制度ノ遺風ヲ滅却セリ此ノ改革ニ付テハ或ル論者ハ純然タル自由心ヨリ出テタルモノト云ヒ又タ或ル論者ハ談議院ノ議員ハ多ク地主ナルヲ以テ其土地ヲシテ封建制度上ノ課役ヲ免カレシメンカ為メノ私心ニ出テタルモノナリト云ヘリ、然レモ其何レカ是ナルヤハ自カラ他ノ問題ニ帰スレハ余今マ敢テ之レヲ判決セサルヘシ然リト雖モ「チャールレス」王死刑ノ後チ談議院ハ地主ノ負擔スル所ノ封建制度上ノ課役ヲ廃棄スルノ決議ヲ出セリ即チ議院ノ議決シタル條例ノ文ニ於テ國王及ヒ貴族ヨリ借リ受ケタル田地ノ領地法ハ其方法ノ如何ヲ問ハス悉皆コレヲ「プリー、アントー、コムモン、ソッケーヂ」(上等自主ノ身

分ト云フ義トナスヘシ但シ「フランカルメーン」「コッピーホルド」以上僅ニ平民ノ上ニ位スル身分「オノ・レレリー、セルヴァセス」國王ノ奴僕ニ非スシテ其昵近ナリ）ノ分ハ此ノ限ニ非スト明記シタルノ事實ニ至リテハ蓋シ疑ヲ容レサルナリ此ノ変革ノ時ニ至ル迄ハ英国人民皆ナ收税ノ名ヲ知ルモ其実何タルヲ知ラサリシナリ足ヨリ先キ暴王「チャーレス」八世及ヒ其奸邪ナル議院カ教會堂及ヒ寺庵ヲ掠奪シ教會ノ田地并ニ教會所有ノ十分一税ヲ没收シタルカ為メ其悪果ハ終ニ女王「エリサベス」ノ統治ニ至リ英國人民ノ永久済貧割前銭ヲ出スノ負擔トナリ果然英國人民ノ頭上ニ落チタリ蓋シ教會ノ領地及ヒ十分一税タルヤ英國窮民ノ生ヲ得シ活路タリシニ之レヲ奪フタルヲ以テ政府其救助ヲ為サヽルヘカラサルニ至リシハ復

タ自然ノ情勢ナリ然リト雖モ当時其收額甚タ些少ニシテ收税ト称スルニ足ラス故ニ余輩ハ此ノ久年議院ノ決議ヲ以テ收税法ノ第一ノ隅礎ヲ定ムルモノト為スヘシ而シテ其收税法タル終ニ國家第一ノ重事トナリ而シテ此ノ事ニ就テハ大蔵卿タルモノヽ経済上ノ最要点ニ注目スルト否ラサルトニ由リ國家禍福貧富ノ係ル所トナレリ「チャーレス」二世ノ統治ハ其父王死去ノ日ヨリ起筭セリ而シテ変革ノ決議（收税法ノ決議）ハ王政回復（レストレーション）ノ後ニ批准サレ「チャーレス」二世即位十二年ノ成文律書中ニ登録セリト虽モ実際此ノ変革ヲ決議シタルモノハ則チ久年議院ナリ、其後チ久シカラスシテ一條例ヲ決議シ寂悪ノ收税法即チ國産税（ニキサイス）ノ收税法ヲ制定セリ

教法改革ノ名義ヲ以テ寺院ヲ掠奪シ教會ノ所有地ヲ没

收シ而シテ言ヲ設ケ教會ノ所有地歳入ヲ以テ国費ニ充ツル上ハ當代ノ國王及ヒ後代ノ國王モ此ノ上ノ税ヲ其人民ニ課スルニ及ハサルヘシト云ヒタルニ（サー、エドワルド、コーク」氏ノ引用スル所ノ説ニ據ル）其成果却テ將来收税ノ源由トナリシハ復タ奇ナラスヤ然レモ其事実タルヤ確実ニシテ固ヨリ疑ヲ容レス右没收掠奪ノ影響ハ則チ女王「エリサベス」ノ即位第四十三年ニ至リテ済貧割前銭ノ制定ヲ喚起スルニ至レリ又タ彼ノ王政ノ顛覆シテ領地者ヲシテ封建制度上ノ課役ヲ脱セシメタル反乱ヲ挺起シタルモノハ則チ「チャールス」一世カ法王教ニ偏向スル「ト「ブレスビテリ」教徒カ彼ノ没收トナリタル餘地ヲ鷲攫セント欲スルノ勢アルヨリシテ寺院ノ所有地ヲ領スル者及ヒ俗人ニシテ十分一税ヲ受收スルモノ恐懼シテ置ノ触ハサル「トヨリ継発シタル成果ナルヲ知ルナリ又タ一千六百八十八年ニ於テ王位相続ノ系統ヲ変化シタル反乱ヲ提起シ當時ノ當局者ヲシテ公債ヲ募集シ紙幣ヲ発行スルノ已ムヲ得サル時機ニ至ラシメシモノハ「ゼームス」二世ノ羅馬教ヲ奉スルカ故ニ前ニ開陳シタル同一ノ恐懼ヤリテ之レカ源因トナリシヤ其レ明ラカナリ（右恐懼ヲ以テ反乱ノ源因ト言フモノハ蓋シ談恐懼ハ即チ「カベンシス」及ヒ「ラッセルス」黨ノ如キ愛國者義擧ノ源因ナルカ故ナリ）余ハ今マ筆ヲ進メテ國債及ヒ紙幣ノ増加ト其影響トニ付テ偏倚ノ私論ヲ脱シ公明正実ノ意見ヲ陳述スヘキ好機會ニ至レリト信スルナリ

凡ソ此ノ冊子ノ如キ史冊ニ於テ其所論ノ本体ヲ開示スルニ當テハ先ツ讀者ヲシテ英國社會ノ形情ト人心ノ情

況トヲ知ラシムルヲ要トス故ニ余輩ノ筆ヲ此ノ財政史ニ下スノ時限タルヤ一千六百八十八年ノ大改革ヲ以テ端緒トス此ノ改革アリテヨリ爾来数年間事々物々皆ナ一新ノ状況ヲ現ハシ國ハ新政府ノ支配スル所トナレリ然リト雖モ該新政府ハ尚ホ人民ノ信ヲ得ス新主「ヰリアム」三世及ヒ女主「マリー」ノ位置未タ安康ナラサルニ國民ハ四分五裂シ和合團結ノ形情ナク又タ政黨宗黨ノ夥多ナルヨリシテ人心ノ一致セサルノミナラス人々互ニ相ヒ敵視シ其大半ハ此ノ新政府ヲ懌コバス甚シキニ至テハ公然之レニ抵抗スルモノアリ就中國民中羅馬教徒ノ如キハ其奉教ノ國教ニ異ナルト其政論ノ異ナルトニヨリ非常ニ當時ノ新制度ヲ誹議シ政府ト相ヒ敵視セリ、是ノ故ニ一千六百八十八年大改革ノ源由ハ旧教ノ回復シテ彼ノ没收サレタル英國ニ於ケル羅馬教會所有地ノ其旧主ノ手ニ復スルコトアラン乎ト疑ヒ懼レタルヨリ生シタルヤ夫レ詳カナリ「チャーレス」二世及ヒ其弟「ゼームス」二世ノ統治ニ於ケルヤ屢〻旧教ヲ回復セント企図スルモノアルヲ見ル既ニ然ルトキハ羅馬教會ノ没收地ヲ所有スル人々ガ該教回復ヲ懼レ「スチュアルト」家ヲシテ久シク政権ヲ得セシメハ羅馬教回復シ從テ其始メ瓦解ヨリシテ得タル非常ノ富実ハ忽チ他人ノ有ナルヘシト思ヒ終ニ其暴舉ニ及ヒシハ固ヨリ然ルヘキノ理ニシテ怪シムニ足ラサルナリ此ノ改革ノ時タルヤ教法改革ヨリ既ニ一百五十年ヲ經過スト雖モ人皆ナ英國新教ノ設立ハ英國大半ノ民情ニ背キ殊更愛蘭ノ意ニ戻レルモノタルハ尚ホ今日ニ在テモ想像スヘキナリ抑モ國民ノ大半

ヲ占ムル細民カ大改革ノ時ニ於ケルヤ其時ニ至ル迄ハ
貴族ヲ以テ猶ホ其首長ト恃ミ生命財産ノ保護ヲ受クル
モノト慣習シタルカ今マ此ノ貴族ニ見捨ラレ尚ホ封建
廢制ノ遺風アル貴族ノ為ニ抑壓セラレ進退此ニ谷マリ
已ムヲ得ス「ヘンリー」ハ世及ヒ其奸強ナル國會ノ侵掠改
革ニ強從セリ然リト雖モ該「ヘンリー」王ノ後チ四朝ノ
間奮鬪勇進流血淋漓其舊教者ヲ殺戮シ慘狀ヲ極ハメ漸
ク旧教ヲ顛覆シ新教ヲ制立スルニ至レリ然リト雖モ新
教ヲ確立シテ復タ感カスヘカラサルノ位置ニ至ルハ當
時尚ホ未タ能ハサリシ所ナリ故ニ羅馬教徒(即チ旧教徒)
ハ「オーレンジ」侯即チ「ウヰリアム」三世ノ統治ヲ以テ新教ノ
初テ勝利ヲ得ルモノト思ヒ當時ノ新政府ニ向テ大ニ不
滿ノ意ヲ現ハシタリ蓋シ是レ當時尚ホ國情ノ然ラシム

ル所ナリ
羅馬教徒カ「ウヰリアム」及ヒ「マリー」ノ統治ニ向テ多ク不滿
ヲ懷クノ時ニ際シ守舊黨ノ輩此ノ機ニ乘シ其持論ヲ主
張シ權勢ヲ得タルハ疑ヲ容レサルナリ夫レ守旧黨ハ「ゼ
ームス」王ノ旧教ニ惑溺執著シテ為ニ人民大半ノ望ヲ失
ヒ其尊信スル所ノ旧教ヲ回復スルヲ得スシテ徒ニ其大
位ヲ危難ノ地ニ至ラシムルヲ懌ヒスト雖モ復タ王位継
統ノ変改ヲ好マサルナリ然リ而シテ守旧黨ノ輩新朝ヲ
見ル猶ホ仇讎ノ如ク然リ是レ其新政府ノ組織ハ守旧黨
ノ為ニハ反對黨勝利ノ成果ナレハ之レヲ信ス「ルナク
又タ之レヲ敬スル「モナキハ固ヨリナリ然ハ則チ其新
政府ノ永存スルヲ欲セサルハ蓋シ疑ヲ容レサルナリ當
時ノ重ナル守舊黨カ王統一系変スヘカラサル神統權ヲ

主張決行セシハ実際何レノ程度ニ達セシヤ余輩ハ今コレヲ確説スル能ハスト雖モ其黨中二三ノ非常ニ談権ヲ主張シタルモノアルハ蓋シ疑ヲ容レサルナリ是レヲ当時ニ徴スルニ彼ノ新教ヲ奉スル「ロッチェスタル」地名ノ督教ナル「エッテルバリー」氏カ如キハ其尊信スル宗旨ノ朝ニ非ザルモ猶ホ且ツ身命ヲ犠牲ニシテ旧朝神統権ノ王位ヲ回復セント企図セシニ非ラスヤ夫レ旧朝ノ王位回復スルアラハ必ラス同氏ノ奉スル教會ハ覆滅ニ至ルハ復タ自然ノ情勢ナルニ今マ之レヲ省ミスシテ神統権ヲ主張セルアルヲ視ルトハ其自カラ奉シ己レニ利アルノ人々ニ於テハ其肝脳ヲ砕テ以テ旧朝ヲ回復セント企図スルヤ固ヨリ知ルヘキノミ然リト雖モ当時其情況ノ如何ヲ問ハス「穿リアム」三世及ヒ女主「アン」統治ノ時ニ於ケル守旧黨中ニ当時有名ノ人傑アリシハ固ヨリ疑ヲ容レサルナリ就中「ポリンブロック」「スウフト」「ハーリー」「エッテルバリー」及ビ「ポープ」輩ノ如キハ当時当局者ノ最モ畏憚スル所ノモノナリ

是ノ時ニ當リ當時ノ政府ニ抗抵スル黨派ハ各自互ニ其平生ノ怨恨ヲ解テ一致結合シ以テ一黨トナレリ然ルニ自カラ政府黨ト稱スルモノハ却テ各自相ヒ分離シテ一致スル能ハサリシナリ然レトモ是レ政体其タ完ラス人心尚ホ服従セサルノ時ニ當リテハ固ヨリ免カルヘカラサルノ情勢ナリ新教會僧侶ノ内ニ於テ猶ホ且ツ大ニ其所見ヲ異ニシ分裂スルアルヲ見ルヲ要スルニ其新教ヲ維持スルモノヽ法教ニ於ケル其法教ヲ愛敬スルニ非ラスシテ其本心ニ至リテハ唯タ羅馬旧教ノ回復ヲ是レ

恐ルヽニ在ルノミ蓋シ旧教ヲ滅セサレハ已レノ維持ス
ル能ハサルノ黨ナレハナリ又タ「ハイ、チャーチメン」（按ニ大
英國皇家聖會人ト云フ義）ハ新教會中一種ノ教黨ニシテ
其主張スル所ノ教論ヲ考フルニ王統一系ノ君權論ヲ固
守シ俗人ノ所見ヲ以テ法教ニ干渉スルノ權ナキヲ宣言
シ專ラ「ロード」「シュウギヨン」及ヒ其他「チャーレス」一世時代ノ
「ハイチャーチ」督教（按ニ大英國皇家聖會ノ督教ナリ）等ノ教
諭ヲ固守シ而シテ「プレスビテリー」教徒及ヒ其他ノ已レ
ト教旨ヲ同シフセザルモノヲ斥シテ毒悪ノ改宗者ト看
做シ以テ竊カニ英國ノ「新教會」ト「旧教會」ヲ漸次聯合シ宗
教ノ一統ヲ為サント企圖シ而シテ終ニ「スチュアルド」家ニ
親睦シ此ノ主家ハ政治ニ由テ其策畧ヲ實施セント試ミ
タルモノナリ此ノ教黨ノ所論ヲ主張スルモノハ諸大學

校殊ニ「オックスフォルド」大学校ヲ以テ首倡トス然リト雖モ
十九世期ノ「ピュセイツ」黨（即チ宗教聯合論黨）ハ十七世期十
八世期ノ「ユッテルバリー」黨「サッチュベレル」黨及ヒ其他ノ「ハイ
チャーチ」傳道教師ノ継教者ニシテ自カラ教ヲ起シタルモ
ノニアラサルナリ
「ロウ、チャーチメン」（「ロウ、チャーチ」ハ法律ニ由リ設立スト雖モ
殊ニ財宝ノ為ニ設立セシ教會ナリ）「ロウ、チャーチメン」ハ即
チ該宗尊崇ノ人ナリ」ニ次テ新政府ニ最モ熱心ナル黨派
ト稱スヘキモノハ則チ各派ノ新宗ナリ國王ハ元来「カル
ビニスト」教黨ナルヲ以テ非常ニ厳「プレスビテリー」教徒
ノ人望ヲ得タリ「カルビニスト」ノ外猶ホ数種ノ新宗派ア
リ即チ「アナバプチスト」「コーカース」「ミレンナリヤンス」「ソ
シニヤンス」「フヒフツ、モナーキーメン」「インデペンデンス」等

ノ教徒是ナリ、之レヲ槩論スレハ初度教法改革ノ時ニ輩出シタル理論者ハ其所論ノ如何ニ拘ハラス皆ナ之レヲ新宗派ト称シテ可ナリ、夫レ教論ノ自由ハ政論ノ自由ト其伸縮ヲ同フスルカ故ニ當時教論既ニ其自由ヲ得タレハ政論ノ自由従テ之レニ陪従ス是レニ因テ右ニ陳述シタル教黨ハ皆ナ民黨教會ニ一致シテ大改革ヲ行ナフタリ此ノ大改革タルヤ其黨中或ハ多ク激烈粗暴ノ政論ニ渉タルモノアリト雖モ當時ノ人傑コレニ協力セシヲ以テ首尾能ク終ニ其成功ヲ為スニ至レリ然リト雖モ「マルボロー」「ソメルス」「ローク」「エチヅン」「スチール」「ハリファキス」人名及ヒ其他ノ勢力ヲ有スル民黨ハ決シテ共和黨ニアラス談民黨ハ當時皆ナ共和政治ヲ以テ國是ト信セシト雖モ民政ノ政理ヲ篤信シテ以テ國ヲ統御セント欲スルモノハ僅ニ数人ニ止レリ其之レヲ實施スルヲ欲セサルノミナラス之レニ反シテ忽チ毎三年改撰議院ヲ廃棄スルノ名義ヲ造テ之レヲ主張シタリ又タ「ロルト」、「ソメルス」氏ノ如キハ其心術確實ナラス而シテ其偏見ノ濛霧ニ迷惑サレ毎七年一次議員改撰條例ニ觸レ之レヲ破毀シタルモノアレモ却テ法律上コレニ其許可ヲ與フルノミナラス之レヲ称譽スルニ至レリ、此ヲ以テ當時ノ情勢ヨリ観察スルトキハ我カ祖先「アングロサクソン」自由ノ人情風俗ハ数百年ノ間地ヲ拂テ滅却スルニ似タリ其昔日ニ於ケルヤ國王ト雖モ任撰ニシテ一系世襲ノ権ナキ「ハ古代即位式ノ今日ニ殘ルモノヲ以テ明證スルヲ得ベシ然ルニ一千六百八十八年大改革ノ時ニ於ケルヤ人民ノ大半ハ皆ナ王統一系ノ神統権論ニ染浸セリ「コロンウエル」ノ初度

議院ノ時ニ至ル迄ハ尚ホ二三ノ證跡アリテ「ヘンリー」三世統治以前ハ國王下院ノ許可ヲ得ルニアラサレハ議院ニ於テ一介ノ議員ヲモ増加スル能ハサリシヲ証明シ得ヘシ然リト雖モ此ノ「コロンヒル」初度議院以後ハ誰アッテ公然ト彼ノ君主ハ勝手ニ議院ノ議員ヲ任定スルノ特権ヲ有スト云フ論義ヲ斥スルモノアル日聞カサルナリ」

一千六百八十八年大改革ノ時限ニ於テ國内教黨政黨ハ右ノ如キ情況ニシテ民心モ亦タ右ノ如ク分離セリ「スチュアルト」王統ノ回復ヨリ「ウヰリアム」即位ノ時ニ至ル間ニ於テ財政上ニ枚挙スヘキ変化アルヲ見ス「スチュアルト」王ノ政治タルヤ其施政ノ苛虐無道ナルニ由テ其政策ノ観ルヘキモノナキヲ知ルナリ其故何トナレハ君主皆ナ庸闇ニシテ國王其議院ヲ廃棄スルモ猶ホ其位ヲ維持スルヲ得ヘシト雖モ其政権実力ハ既ニ失ルヲ悟ルノ智ヲ有セサルナリ蓋シ議院ヲ廃スルトハ政府ノ財政ヲ維持スルニ緊要ナル金穀ヲ人民ヨリ徴收スル能ハサルカ故ナリ是レ則チ君主専権ノ虚榮ニ惑溺シテ政權実力ノ尊ムヘキヲ知ルノ聰明ナキニ坐スルモノナリ君権ノ恃ムニ足ラサルヤ其レ斯ノ如シ抑モ君権ナルモノハ唯タ名ノミニシテ金穀ノ實力ヲ有セサレハナリ然ルニ當時ノ世主皆ナ徒ラニ議院ヲ嫌惡シテ議院ノ利ヲ知ラサルナリ夫レ議院ヲ設立シ博ク人才ヲ集メ以テ自由政治ノ國是ヲ表スルトキハ單ニ君主專制ノ力ヲ以テ施スヲリモ政府ノ權力ハ之レニ十倍スルヲ得ヘキヲ夢猶ホ悟ラサリシハ歎スヘキノ至リナリ是ノ故ニ後「スチュアート」王ハ純然タル專制ノ主タリト雖モ嘗テ久年議院及ヒ奪權政府カ

英國中ノ唯タ一部ヨリ徴集セシ金額ノ半額ヲモ猶ホ其全國人民ヨリ徴集スル能ハサリシナリ例之ハ「チャールス」二世ノ如キハ彼ノ西班牙王「フェルヂナント」ト七世ノ如ク暗愚ノ極自カラ英明ノ君ト信シ擅ニ暴威ヲ振ヒ議院ノ力ヲ藉ルニ、交ハスト思惟セシカ爾来其歳收ノ甚タ欠乏ナルニ又タ奢侈極メテ甚シケレハ終ニ財政ノ困難ヲ来タシ窘窮ノ極一領ノ新襯衣ヲモ購求スル能ハサルニ至レリ夫レ久年議院ノ徴集シタル收入ノ額数ニ付テハ確実ナル記録ノ今日ニ証スヘキモノナキヲ以テ今マ信ヲ置クヘキノ確報ヲ得ル能ハサルナリ「サー、ジョン、シンクレール」(同氏著ス所ノ歳入史第一巻二百八十四葉ヲ見ヨ)氏ノ引用スル所ニ據レハ一千六百四十年十一月三日ヨリ一千六百五十九年十一月五日ニ至ル間ニ英國ニ於テ收入シタル金額ハ毎年八千三百三十三万一千一百九十八封度乃至四百三十八万五千八百五十封度ナリト是レ同氏モ其調査中最モ確實ノモノナリト言ヘリ、然リト雖モ一千七百二十五年出板ノ一層精細ナル報告ニ據ルトキハ年毎ニ九千二百三十九万一千三百四十八封度乃至四百八十六万二千七百封度ノ巨額ナルヲ見ル、此ノ報告タルヤ明ニ久年議院黨ノ出版ニ非サルノミナラス其記者ノ姓名モ記載セサレトモ此ノ金額ヲ徴集シタル收途ノ條目ハ盡ク之レヲ細記セルヲ以テ余ハ此ノ説ノ「サー、ジョン、シンクレール」氏ノ説ニ優劣ナキヲ知ルナリ余輩若シ「ゼームス」二世即位ノ初年ニ議院ノ議決ニ由テ徴集シタル歳入ヲ以テ久年議院ノ歳費ニ比較スレハ其金額ノ大ニ減縮スルヲ見ルナリ

「ゼームス」二世禪位ノ歳ニ於ケル收入ハ即チ左ノ如シ

	封度
材木、石炭、塩及ヒ噸稅磅稅	六〇〇、〇〇〇
國産稅、麥酒、及ヒ「エール」	六六、六、三八三
竈稅	二四五、〇〇〇
郵便稅	六、五、〇〇〇
賣酒免許稅	一〇、〇〇〇
酒及ヒ醋ノ新稅	一七五、九〇一
煙草及ヒ砂糖稅	一四八、八六一
仏國製「リヨン」「ブランデ」及ヒ絹布等ノ稅	九三、七一〇
合計	二、〇〇一、八五五

此ノ金額タルヤ「チャーレス」二世カ收入平均ノ額ニ比較スレハ大ニ超過セリ即チ「チャーレス」二世ノ歳收ハ平均一年一百八十万封度ニ越エス而シテ其收入ハ唯タ此レノミニシテ所謂ル王領地ナルモノヽ其收額ヲ增スヘキモノナシ當時尚ホ僅カニ王領地ノ殘リシモノアリシモ其地稅ノ如キハ此ノ奢侈ノ「チャーレス」王其議院ノ認可ヲ得テ賣却スル所トナレリ但シ其代價ノ金額ハ不明ナリ

右ニ開陳シタル所ニ由テ觀察スルトキハ前後兩度反乱ノ間ニ於テ「スチュアルト」王ノ天下ヲ統治スルヤ之レヲ外面ヨリ見ルトキハ專制壓抑ノ如クナレドモ其内部ヲ窺フトキハ決シテ壓制ニアラサルヤ其レ明了ナリ何トナレハ該政府ノ施政ニ於テハ稅ヲ人民ニ課スルノ機械アリシトヽ雖モ其之レヲ運轉スルノ新制ノ車輪及ヒ齒輪ナカリシヲ以テ國内法教ノ一致セサルヨリ人民ノ爭鬪殺戮ノ禍ニ罹リシ「アリト」雖モ人皆ナ其得ル所ノ給金ハ之レヲ

専有シ其勤勞ト熟練ノ美果ヨリ得ル所ノモノハ盡ク已カ所得トスルヲ得ルカ故ニ是レ之レヲ幸福ト言ハサルヲ得ス之レヲ要スルニ自由ノ名ト形ヲ有セスシテ自由ノ美果ヲ有スルモノト謂フヘシ其後チ數十年ノ星霜ヲ經テ自由ハ名ト形トヲ得タレモ却テ其美果ヲ失フニ至レリ、又タ政府ノ歳入タルヤ今日ヨリミレハ實ニ些少ナリシカ故ヲ以テ当時英國ハ海陸ノ兵備ナク王國タルノ國力ヲ有セサリシナラント想像スルハ寧ロ誤謬ノ見解ト言ハサルヲ得ス蓋シ是レ決シテ実際ニ於テ然ラサルナリ闇主「ゼームス」位ヲ退キシトキ常備ノ海陸軍兵隊ハ既ニ殆シト二万人ニ及ヘリ且ツ夫レ古今金錢ノ貴出ヲ計算スルニ當リテハ必ラス古今貨幣價格ノ変化シタルヲ推算セサルヘカラス是レ次章ニ於テ精密ニ論陳スヘキ主義ナルカ故ニ今マ此ノ處ニ於テハ「ゼームス」二世時代ノ貨幣ハ必ラス其價格大ニ當今ノ貨幣ニ勝ルヘシト言フヲ以テ十分ナリト信スルナリ又タ余ハ當時済貧割前錢ノ些少ナリシヲ以テ人民ハ皆ナ富饒ニシテ太平ヲ樂ミシヲ知ルナリ夫レ済貧割前錢ノ救恤タルヤ甚タ寛大ニ之レヲ施スモ當時一週年ノ救助金額ハ平均拾六万封度即チ純歳入額ノ十二分ノ一ニ過キス当今若シ此レト同シ寛大ノ救恤ヲ為スヤハ其金額ハ純歳入四分ノ一ノ巨額ニ至ルヘシ今ヨリ数年前即チ一千八百三十三年ニ於テ其救助金額ハ同年歳入ノ六分ノ一ニ居レリ

以上陳述シタル事實ニ由レハ一千六百八十八年大改革時限ニ於ケル英國財政ノ情況ニ付テ稍ヤ精密ノ理會ヲ得ルニ甚タ難カラサルヘシト信スルナリ然リト雖モ余

輩ハ今マ此ノ冊子ノ本論即チ英國財政ノ事ニ渉ルニ當テ先ツ更ニ其事實ノ是非得失ヲ判斷スル・ノ定規トナルヘキ本論ノ根本基礎ヲ明カニセザルベカラス夫レ人財政事実ノ詳細ヲ知ラント欲セハ先ツ第一ニ明カニ貨幣ノ用法及ヒ其性質ヲ理會シ第二ニ國債ノ性質ヲ熟知セサルヘカラサルヤ其レ明ラカナリ故ニ余ハ第二章ニ於テ先ツ貨幣ノ用法性質便益及ヒ其変化ニ付テ成丈ケ公平明白ノ説明ヲ為シ第三章ニ於テ成丈ケ精密ニ國債ノ性質ヲ解明スヘシ而シテ該二章ノ主義ヲ十分論陳スルノ後チ更ニ進テ政府カ國債(ネーションヌデット)ト称スル債ヲ起シ乃チ國債ノ証書ヲ造リ以テ通貨ノ增補ニ備ヘタル財政歴史ノ發端ト政府ハ貨幣ヲ貸渡シタル人々カ漸次ニ一種ノ新位置ヲ人民社會ニ生シテ終ニ國債主ノ新稱ヲ得ルニ至リシ顛末ヲ論陳シ年代ノ順序ニ從テ章ヲ逐テ筆ヲ進ムルアラントス

第一章終

英國財政史

峯源次郎訳

第二章

貨幣ノ用法○性質○便益○顕像

余ハ貨幣ノ性質便益價格等ニ付テ精密ノ理會ヲ得ルニハ左ノ如ク論説ノ條節ヲ區分シテ之レカ説明ヲ為スヲ以テ最良ノ方法ト信スルナリ

第一商賣品必用品榮耀品等諸物品ノ價格ノ源由ヲ明ラカニ了解スルコト

第二諸物品價格ノ源由ノ道理ヲ以テ同シク一種ノ商品ナル所謂ル貨幣ノ價格ノ源由ノ道理ニ推考スルコト

第三貨幣ヲ以テ特ニ諸物品價直ノ秤量ニ使用スル所以ノ理ヲ精密ニ解明スルコト

第四貨幣ヲ以テ價直ノ秤量タラシムル源由ノ外物ノ為

ニ攪乱セラルヽ所ニ當テ發現スル変動ヲ明知スルコト
第五貨幣ノ自然ニ各國其需用ノ多少ニ應シテ諸國ノ間
ニ自カラ分配シ且ツ各國其價格ヲ平等ニシテ而シテ通
商貿易ノ諸文明國ニ於テ其價格ヲ水平ニ保ツ所以ノ條
理ヲ明カニスルコト
第六紙幣ノ性質ノ貨幣ニ異ナル所以ノ理由ト紙幣及ヒ
貨幣ヲ混用スル乎若シクハ紙幣ヲ以テ貨幣ニ代用スル
ヨリ生スル所ノ成果ヲ論究スルコト是ナリ
夫レ総テ右ノ主義タルヤ其理甚タ精微ニシテ尋常ノ人
ハ勿論久シク貿易及ヒ金錢取引等ノ事ニ老ユルノ人ト
雖ヒ猶ホ且ツ之レヲ人智ノ解シ能ハサルモノト考定ス
ルニ似タリ然リト雖ヒ是レ決シテ鬼神ノ幽顯ニアラス
人智ヲ以テ能ク了解スルヲ得ヘキ道理ナリ既ニ人智ヲ
以テ之レヲ了解シ得ヘキモノタルヒハ之レヲ了解シタ
ル後チ又タ之レヲ他人ニ教エルヿ能ハサルノ理ハアラ
サルナリ故ニ讀者起首一時ノ難處ニ由テ自棄スルヿナ
ク虚心平易ニシテ三復倦マス熟讀玩味シ而シテ孜々怠
タラスンハ財理ニ於テ其得ル所蓋シ鮮少ナラサルヘシ
ト信スルナリ
第一諸物品ノ價直ヲ論ス
余輩ハ今マ此ノ主義ヲ開陳スルニ當テ先ツ水論ノ起首
ニ於テ缺ヘカラサル價直ト要用トノ間ノ區分ヲナサ
サルヲ得ス夫レ物ノ價直タルヤ其物ノ人間ニ要用ナル
カ故ニ生スルニアラス例之ハ空氣ノ如キハ此ノ世ニ生
存スルモノ一瞬間モ缺クヘカラサルノ要用品ナリト雖
ヒ少シモ價直ヲ有セス是レ他ナシ此レ造物主ノ供給ス

ル所ニシテ人之レヲ得ルニ力役ノ勞ナケレハナリ然ラハ則チ價直ノ源由ハ其物品本体中ニアルニアラスシテ却テ他ノ外物中ニ存スルヲ知ルナリ其外物トハ何ソヤ即チ其物品ヲ得ルニ必要ナル力役勤勞ノ分量是レナリ夫レ人勤勞ヲ用ユルノ目的ハ種々多様ナリト雖ヒ價直ノ眞ノ秤量ハ此勤勞ノ分量ニ外ナラサルナリ勤勞ヲ用ユルノ目的タルヤ或ハ我実用ヲ充タスノ物品ヲ得ンカ為ニ其勤勞ヲ用ユルヿ之レアリ例之ハ石炭若シクハ常用金属ヲ採掘スルカ如キ是ナリ又タ其実用ハ済ササレ𪜈質分ノ極メテ美ナル乎若シクハ極メテ世間ニ稀少ナル乎ヲ以テ好嗜心ヨリシテ之レヲ得ンカ為メニ其勤勞ヲ用ユルコト之レアリ喻ヘハ金剛石及ヒ其他ノ寶石等ニ於ケルカ如キモノ是レナリ其物品ノ價直ノ非常ニ高貴ナルモノハ其物ノ甚タ稀少ニシテ之レヲ求ムルニ非常ノ勤勞ヲ用ヒサルカ故ナリト雖ヒ此勤勞ヲ用ユルノ意思ハ其寶玉ノ極テ美ナリト思フノ滿足心ニ起ツテ之レヲ有スレハ人間ノ實用ヲ濟スヘシト希望スルニ起ルニアラサルヤ明ラカナリ故ニ今マ此ノ論節ニ於テ局ヲ結フヘキ決案ハ即チ物品ノ價直ヲ主宰スルモノハ其物ヲ得ルニ必要ナル勤勞ノ分量ニシテ價直アル物品ハ唯タ種々ノ形状ト種々ノ分量トニ於ケル勤勞ノ積聚ニ外ナラサルナリト云フニアルノミ

第二貨幣ノ價格ヲ論ス

余輩ハ既ニ諸物品價直ノ源由ヲ論陳シタルヲ以テ今マ進テ同シク一種ノ商品ナル所謂ル貨幣ノ價直ニ付テ是レカ穿鑿ヲ為スヘシ夫レ貨幣ノ價直モ到底復タ他ノ商

品ノ價直ニ於ケルカ如ク其貨幣ヲ組織スル物体ヲ得ル
ニ缺クヘカラサル勤勞ト既ニ其物体ヲ得テ又タ之レヲ
貨幣ニ鑄造スルノ勤勞トヨリ生スルモノナルヲ知ルヘ
シ抑モ貨幣ナルモノ、「プレシアス、メタール」即チ金銀ヨ
リ鑄造スベキモノトス然シ金銀ノ價直ハ何レヨリ生スル
乎金銀ハ生産甚タ稀少ナルヲ以テ之ヲ採掘スルニ非常
ノ勤勞ヲ用ヒザルヲ得ス然ラハ則チ其價直ヲ量ルモノ
ハ即チ其費用シタル勤勞ノ分量ナリト云ハサルヲ得ス
金ノ價直ハ銀ノ價直ヨリ貴キコト二十倍ナリ其故何ト
ナレハ一「オンス」ノ金ヲ得ルニ必要ナル勤勞ハ一「オンス」
ノ銀ヲ得ルノ勤勞ヨリ多キコト二十倍ナルカ故ナリ故
ニ今マ若シ金ノ産出額増シテ二倍トナリ前日ノ勞ノ半
勤勞ヲ以テ之レヲ採掘スルノ勤勞ハ前日ノ半ニシテ其

所得ノ金額ハ前日ニ下ラサルキ公ニ必ラス其價格下落シ
テ之レヲ銀價ニ比較スレハ前日二十倍ヲ超過セシモノ
今ハ十倍ニ過キサルヘシ乃チ貨幣ノ價直アルモノハ特
ニ之レヲ組織スル物質ノ價直アルニ歸セサルヲ得ンヤ
然ラハ則チ貨幣ハ他ノ商品ト同シク其之レト交換スル
物品ノ價直ヲ標スル各商品普通ノ性質ヲ具有スルノミ
ニシテ他ニ一種特別ノ性質アルヲ知ラサルナリ
貨幣ノ真價ト其基礎タル勤勞ニ付テハ斯ノ如ク十分ノ
明鮮ヲ為シタレハ今マ第三節ニ進行スヘシト雖モ尚ホ
此ノ処ニ於テ実價ノ其実價ヨリ支別シタル第二位ヲ占
ムル價直ノ種類アルヲ陳述セサルヘカラス此ノ一種ノ
價直タルヤ余輩後チニ紙幣ノ性質ヲ論究スルニ至テ十
分ニ之レヲ説明スヘケレハ今マ此処ニ於テハ唯其價直

ノ何物タルヲ記スレハ乃チ足レリト信スルナリ夫レ他ノ必要ノ事物トノ分離シ難ク相ヒ連合スル所ノ事物ハ自カラ復タノ必要ノモノナルヘシト云フハ性理學ノ格言ナリ又タ他ノ價直アルモノヲ保険シ或ハ之レヲ支配スルモノハ復タ自カラ其價直アルモノナルヘシト云フハ経濟學ノ格言ナリ然レトモ今マ右ニ掲ケタル實價ノ革二位ヲ占タル一種ノ價直ヲ考究スルトキハ未タ必ラス此ノ格言ノ如クナル能ハサルヘシトノ異論アルヲ免カレス何トナレハ彼ノ証券(インストルメント)ノ如キハ他ノ價直アル物品ヲ支配スルノ性質アリトイヘトモ其本体ニ價直ナキヲ以テ取引上ニ付テ多分慥カナルヘシト云フヘクシテ屹度確実ナリト言フヲ得サルナリ證書(ボンド)、手形(ノート)、借票(デベンチュール)若シクハ為換手形ヲ(ビル オフ エクスチェンジ)シテ形ノ如ク押印セシメンニ此レ是レヲ大丈夫ノモノト云フヘキ乎之レヲ請取ルハ多少ノ危險ヲ履ムモノト言ハサルヲ得ス故ニ此ノ種ノ價格ハ真價ト比較スレハ較ヽ不慥ニシテ変化或ハ滅却ノ禍ニ罹リ易キモノナリ何トナレハ則チ該價直ハ其性質ノ確實ナラサルヨリ危難ニ遭遇スルコト多クシテ世ノ疑ヲ受ルコト其レ大ナリ又タ実價ノ未タ曾テ受ケサル偶然ノ災難ヲ受ルコトアルカ故ナリ是レ則チ余輩ノ此ノ處ニ於テ陳述スルヲ要スル全論ナリ而シテ世ニ所謂ル此ノ代理價値(デリバティブ ヴァリュー)ノ適當ノ算定ニ至リテハ之レヲ後チニ譲ルヘシ蓋シ該價直ノ世ニ成立スル所以ノモノヲ考フルニ該証券(インストルメント)ハ元来其本体ニ在テハ價直ナシト雖モ先ツ之レヲ有スルトキハ後チニ至リテ實價アルモノヲ得ルニ相違ナシト世人ノ之レヲ信用スル外ナラサルナリ

第三貨幣ヲ以テ特ニ諸物品價直ノ秤量ニ使用スルヲ論ス

余輩既ニ十分貨幣ノ價直ヲ説明シタレハ今マ又〻進テ貨幣ノ使用ヲ論陳スヘシ夫レ貨幣ヲ使用スルノ主義タルヤ之レヲ理會スルニ價直ノ論題ト均シク密ニ之レカ考究ヲ為サヽルヲ得ス而シテ該主義ニ付テ確實精密ノ考案ヲ得ント欲セハ先ツ貨幣ノ便益ハ他ノ物品ノ價直ヲ權衡スルニアリト云フヲ知ラサルヘカラス又タ其便益ハ特リ貨幣ニノミ具有スルヿヲ忘ルヘカラス夫レ貨幣ノ便益タルヤ人トノ間ニ商品ノ交易ヲ輕便ニシ大ニ光陰ト勤勞トヲ倹約ス然リト雖モ貨幣ニ此便益アル所以ノモノハ人ノ貨幣ニ於ケル篤信スル所アリテ貨幣ノ性質ハ諸物品ノ價直ヲ權衡スルモノト考定スルノミナラス之レヲ実際ニ徴スルニ貨幣ノ價直タルヤ実ニ定然トシテ変動スルヿ稀ナルカ故ナリ此処ニ使用シタル價直ノ秤量ナル言語ハ則チ貨幣ノ直解ニシテ決シテ譬諭ノ言語ニアラス乃チ貨幣ハ居然タル一個ノ秤量ナリ量地者ノ量鏈ノ地坪ヲ量リ賣段商ノ碼尺ノ貨段ヲ度ルカ如ク齊シク價直ヲ權衡スルモノナリ是レ則チ貨幣正真ノ職掌ナリ是故ニ故意或ハ偶然ニ其正真ノ職掌ヲ誤用スルトキハ其成果タル詭詐ヲ継發スルハ蓋シ疑ナキナリ是レ後章ニ於テ縷々明證スル所アラントス扨テ今マ此ノ処ノ次号ニ於テハ何故ニ特リ貨幣ヲ以テ諸物品ノ價直ヲ權衡スルニ用ユル乎ヲ論セントス

貨幣ヲ以テ他ノ物品ノ價直ヲ權衡スルハ則チ貨幣本体ニ一定不拔ノ價直アルカ故ナリ夫レ此價直ニ変動ナキ

所以ノモノハ貨幣ヲ鑄造スル金銀ヲ造物主ノ此ノ世ニ賦与スルヤ自カラ定則アツテ突然其額多キヲ加ヘス又タ減スルコトナシ且ツ之レヲ採掘スルコト極テ困難ニシテ非常ノ勤勞ヲ用ユルニアラサレハ得ル能ハス而シテ採鑛費不廉ニ進ミ金銀ノ價直ト均シキニ至ルトキハ勿論採鑛事業ハ停止スヘシト雖モ苟シクモ採鑛費ノ此点ニ至ラサル間ハ勿論又タ年々若干ノ金銀ヲ採掘スヘシ然リト雖モ此ノ如ク採掘シ得タル産額ハ固ヨリ僅少ナレハ絶ニ麾耗用壞破損損害等ノ補償ニ供スルニ足ルノミニシテ世間ニ使用スル金銀ノ全額ニ至リテハ或ル年月ノ間依然トシテ少シモ増減スルコトナシ而シテ又タ世界中之レヲ需用スルコトモ著シク不意ニ増減スルコトナキヲ以テ一様ノ價直ヲ維持シテ変動スルコトナシ

是故ニ此金銀ノ價直ハ諸物品ノ変動多キ價直ヲ權衡スルノ定規（スタンダルト）即チ秤量タルヲ得ルナリ夫レ一個ノ貿易品ノ突然非常ニ其分量ヲ増加スルトキハ増加以前ニ購求セシ同一ノ金額ヲ以テ一層多量ノ物品ヲ購求スルヲ得ヘシ是レ此ヲ稱シテ世ニ廉價（チープネス）ト謂フ又タ之レニ反シテ一個ノ商品不意ニ其分量ヲ減縮スルトキハ其減縮以前ニ購求セシ同一ノ金額ヲ拂フモ其品物ノ分量ハ以前ヨリモ較ミ減少セサルヲ得ス是レ此レヲ稱シテ世ニ高價（ケーカヒス）ト謂フ夫レ斯ノ如キ二個ノ情形ノ由テ起ル所ノモノハ則チ諸商品ハ數々其産額ト其價直ヲ變動スルコトアリト雖モ貨幣ハ依然トシテ物品ノ増減アルカ為メ少シモ其変動ヲ為サヽルカ故ナリ

斯ノ如ク貨幣ノ一定シテ其分量ト其價格トヲ変動セサ

ル間ハ又タ他物ノ價直ヲ権衡スヘキ正真確実ノ秤量タ
ルヲ失ハサルヘシ故ニ物價ノ騰貴シ或ハ下落スルトキハ
則チ其騰貴シ或ハ下落スルモノハ必ラス特リ其物品ノ
需用ト供給トノ変化ヨリ生スルモノニシテ貨幣ノ変化
ヨリ起ルモノニアラス然リト雖モ天然或ハ人為ノ原由
ヨリシテ通貨金額ノ突然大ニ増加シ或ハ減少スルトキハ
則チ古今未曾有ノ情形ヲ財政上ニ継発シ而シテ其影響
ヲ蒙ムル人々ハ皆ナ大ニ窘迫スル挙テ言フヘカラサル
モノアルニ至ラン喩ヘハ通貨ノ一國若シクハ数國若シ
クハ萬國ニ於テ突然増加スルトキハ則チ物價ノ總騰貴ヲ
致スヘシ又タ此レニ反シテ通貨ノ一國若シクハ数國ニ
於テ突然減少スルトキハ則チ必ラス又タ物價ノ総下落ヲ
来タスヘシ然リト雖モ尤多ハ其騰貴下落ノ由テ生スル

所以ノ源由ト其方法トヲ知ラス即チ其源由ト方法トハ
左ニ記載スルカ如シ喩ヘハ今日豊饒ニシテ採掘シ易キ
鑛山ヲ発見シタルカ為メ突然其國ニ於テ金銀ノ分量ヲ
増加スルト假定セヨ然ルトキハ則チ人之レヲ採掘スルニ
用ユル勤勞ノ昔日ヨリ大ニ減少スルヲ以テ既ニ其金銀
持主ノ手ニ於テハ其價直減少セリ而シテ又タ其分量ノ
昔日ヨリ巨多ナルカ故ニ其持主ノ此レヲ以テ其嗜好ス
ル所ノ物品ト交易スルトキハ必ラス又タ昔日ヨリ較ミ多
量ヲ出タスヘシ此ノ情形タルヤ諸商品ノ分量及ヒ其價
直ノ変動ヨリ生スルニアラスシテ純然貨幣ノ分量及ヒ
其價直ノ変動ヨリ起ルモノナリ而シテ其変動ヲ惹起シ
タルモノハ則チ金銀産額ノ増殖ヨリ来タル金銀塊價直
ノ下落ニ基ヒスルナリ此レ是レヲ物價総騰貴ノ初状ト

ス夫レ物價総騰貴ノ初発タルヤ先ツ二三商品ノ騰貴シ逐次ニ諸品ノ騰貴ヲ生スルモノナリ其騰貴スルニ従テ投機者ノ輩益々物品ヲ買占メ時ヲ観テ遽カニ之レヲ賣ラス此レカ為メニ元来金銀産額ノ増加シテ其價直ノ下落セシヨリ生シタル物價ノ騰貴更ニ増進シテ愈々其勢威ヲ逞シフスルニ至タルナリ然リ而シテ其騰貴ノ弥蔓スルヤ猶ホ無数ノ溪流ノ一所ニ合集シテ以テ大河ヲ為スカ如ク初メ二三物品ノ價直騰貴シテ之レニ継クニ陸續他品ノ騰貴ヲ以テシ終ニ萬品ノ總騰貴ヲ生スルモノナリ尋常ノ人ハ此レヲ以テ直チニ諸物品ノ総高價ナリト速了スヘシト雖モ是レ誤見ナリ此レ唯タ價直ノ秤量タル貨幣ノ廉價ナルノミ該價直ノ秤量(貨幣)廉價ナルトキハ此レニ因テ権衡セラルヽ所ノ物品ハ勿論高價ナル

カ如ク然リ他ノ言語ヲ以テ之レヲ釋スレハ以前ト貨幣ノ額ハ同一ニシテ物品ノ額ハ少ナキナリ即チ物品ノ額ヲ以前ト同一ニ得ント欲セハ以前ヨリモ多額ノ貨幣ヲ拂ハサルヘカラサルナリ今マ又タ何國タルヲ問ハス貨幣ノ額数突然減縮スルコトアリト假定セヨ然ルトキハ則チ右ノ情形ト全ク反對ノ情形ヲ見ルヘシ即チ貨幣ノ流通高減少スレハ従テ其價直ノ騰貴ヲ来タスヘシ然ルトキハ則チ人々物品ヲ買フニ支出スルノ金額ハ貨幣ノ騰貴セサル以前ヨリモ少額ヲ以テ其以前同様ノ分量ノ物品ヲ得ヘシ斯ノ如クニシテ逐次ニ物價下落シ終ニ物品ノ総下落ヲ生スルニ至タル然リト雖モ此ノ廉價ハ猶ホ其高價ノ如ク唯ク外形ノ事ナリ是レ貨幣額数ノ減少ト及ヒ其價直ノ騰貴ニ帰因スルモノニシテ商品供給ノ増

加ヨリ起ルニアラス抑モ價直ノ秤量（貨幣）高價ナルトキハ此レニ據テ権衡セラルヽ物品ハ皆ナ廉價ナルカ如ク然リ他ノ言語ヲ以テ之レヲ釋スレハ以前ト貨幣ヽ額ハ同一ニシテ物品ノ額ハ多キナリ即チ物品ノ額ハ以前ト同一ニシテ貨幣ノ額ハ以前ヨリモ少キナリ

然リト雖モ貨幣ノ金額ニ此ノ如キ突然大変化ヲ生スルコトハ極メテ稀少ナリ設令此変化ノ生スルコトアルモ尋常ノ人ハ多ク其真状ヲ知ル能ハサルナリ故ニ又タ衆人ヲシテ右変化ノ顕像ハ其高價ヨリ起ルト廉價ヨリ起ルトヲ問ハス畢竟貨幣價直ノ変化ニ歸因シテ物品ノ價直如何ニ帰因スルニアラサルコトヲ信セシムルハ極メテ困難ナリト云ハサルヲ得ス夫レ商品ノ騰貴下落ノ如キハ人ノ数〻経験スル所ニシテ習熟スル所ナリト雖モ

價直ノ秤量即チ貨幣ノ変化ニ至テハ未タ人ノ経験セサル所ナルヲ以テ勿論之レヲ先見スルコト能ハス古今共ニ此ノ如キ変化アリシトキハ人常ニ突然其成果ニ遭遇シ其顕像ノ既ニ発生シタルモ尚ホ之レヲ覺悟スル能ハサルアルヲ見ルナリ

第四貨幣ヲ以テ價直ノ秤量タラシムル源由ノ外物ノ為ニ攪乱セラルヽトキノ変動ヲ論ス

以上詳論スル所ニ據テ讀者ヲシテ右論旨ヲ通暁セシムルニハ不足スル所ナシト信スルナリ然リト雖モ今マ一層十分ニ貨幣ノ價直変化ノ主義ヲ明ラカニセンカ為ニハ曾テ貨幣ノ分量ト價直トニ大且ツ急ノ変動ヲ生セシトキニ當テ發現シタル実際ノ情況ヲ開陳シ而シテ其貨幣ノ分量ノ大変化前ニ於ムル物價（殊更ニ小麥ノ價直）ト其

大変化ノ後ニ於ケル物價トノ比較ヲ開示スルヲ以テ最良ノ方法ト信スルナリ

古前後物價ノ比較ニ由テ其變動ノ情況ヲ知ルトハ上文ニ開陳シタル財理ノ真理タルヲ確證スルニ足ルヘシ何トナレハ則チ二三物品ノ價直ハ價直ノ秤量タル貨幣ノ變動セサルモ時々上下スヘケレト悉皆總物品ノ價直ノ如キハ貨幣價格ノ動揺スルアルニアラサレハ永續ノ変動ヲ為スモノニアラス又タ小麥ノ如キ物品ト雖モ數年ノ平均ヲ取テ計算スルトキハ貨幣ニ動揺アルニアラサレハ復タ永續ノ変化ヲ其價直ニ生スルモノニアラス是レ其理自カラ明亮ニシテ喋々説明ヲ要セサルモノト云フモ可ナリ何トナレハ夫レ一國ニ流通スル貨幣ノ總額ハ其國ノ諸物品ニ對立スルモノニシテ則チ物價ヲ組成スルモノタルカ故ニ諸物品ノ俄然一度ニ増加スルカ若シクハ減少スルコトアルニアラサレハ其変動ハ之レヲ貨幣ノ変動ニ因セサルヲ得ス況ンヤ何カニ數多ノ情況アリテ一時ニ輻湊スルヿアルモ一齊ニ萬物ノ價直ヲ変動スルコトハアラサルヘシ小麥ノ如キ物品ト雖モ亦タ然リ何トナレハ小麥ハ他ノ諸穀物ト共ニ數〻上下スルコトアルモ數年ノ平均ヲ取テ計算スレハ其分量ト價直ニ永續ノ変動アルヲ見サルナリ

金銀價直ノ大変動ヨリ從テ貨幣ノ價直上ニ生シタル大変動ノ今マ正ニ論及スヘキモノハ「コロムブス」氏ノ亜國ヲ発見シタル後チ凡三十年即チ一千四百九十二年ニ顕出シタル変動ヲ以テ最大トス夫レ英王「ヘンリー」八世ノ國政ヲ執ルヤ紀元一千五百九年ニ始マル其後チ二十年

ノ内ニ西班牙人ハ墨西哥及ヒ白露ヲ侵畧シテ之レヲ取リ而シテ葡萄牙人ハ「ブラジール」ヲ畧取セリ其時限即チ「ヘンリー」八世統治ノ初ヨリ金銀ノ頻リニ歐洲ニ流入スルヤ古来未タ其例ナキ巨額ニシテ第十六世十七世期中絶エス流入セリ之レカ為メ通貨ハ頻リニ其量額ヲ増シ全歐洲ノ物價非常ニ騰貴セリ是レ蓋シ人類アリシヨリ以来未タ曾テ聞知セサルノ顕像ナルヲ以テ大ニ歐洲理財上ノ混乱ヲ生セリ而シテ「ヘンリー」統治ノ中項ニ至リ漸ク初メテ其影響ヲ英國ニ波及セリ是レ則チ数年ノ間ニシテ當時流通セル金銀ニ巨大ノ増加ヲ為シタル初度ノ顕像ナルカ故ニ古来未曾有ノ事変ト云フモ亦タ宜矣而シテ當時ノ人々ハ皆ナ大ニ驚愕錯乱シテ其正真ノ原由ヲ知ル能ハス英國ニ在テハ此ノ物價ノ騰貴ヲ以テ或ハ買占メニ帰シ或ハ專賣ニ因スルト為シ或ハ蓄積ニ基スト為シ其他種々ノ因由ニ是レ帰スルト雖ヒ終ニ其正真ノ源由即チ墨西哥白露及ヒ「ブラジール」ノ豊饒ナル鑛山ヲ發見シタルヨリ生シタル金銀價直ノ下落ニ根據スルヲ洞察スル能ハサリシナリ故ニ余輩ハ今マ該変動ハ全ク突然通貨非常ノ増額ヨリ生シタル成果ナルコトヲ確徴セシニハ該鑛山發見前後ノ物價ヲ一見スレハ十分ナリト信スルナリ而シテ余輩ハ今マ先ツ小麥ノ價直ノ變動ヲ示スヘシ左ノ表ハ即チ「アタムスミス」氏著ス所ノ富國論ヨリ拔萃スルモノナリ

小麥ノ價直

亜墨利加鑛山開發前後ニ係ス

年紀

自一千四百二十三年至一千四百五十一年	毎「コートル」ニ付平均相場	〇	一〇七
自一千四百五十三年至一千四百九十七年	仝	〇	八五
自一千四百五十九年至一千五百六十年	仝	〇	九二
自一千五百六十一年至一千六百一年	仝	二	七五
自一千五百九十五年至一千六百三十六年	仝	二	一〇〇
自一千六百三十七年至一千七百年	仝	二	一一三

右表ニ據ルトキハ一千五百六十年ヨリ一千六百一年ニ至ル四十年間ニ増進シタル小麥ノ平均價直ハ五倍ナルヲ見ルヘシ此ノ騰貴ヲ惹起シタルヤ該四十年間ニ該穀物ノ産額減少シタルニアラス此レ全ク四十年間非常ノ速力ヲ以テ金銀ノ白露及ヒ墨西哥ヨリ歐洲ニ流出シタルカ故ナリ

右産出金額ノ小麥ニ及ボセシ指響ト同樣諸般商品ノ價直上ニ及ホシタル事実ヲ確徵センカ為メニ「ヅレーキ」氏ノ著ス所ノ「エボラキュム」氏ヨリ拔萃シテ左ノ表ヲ開示ス

物價表

一千三百九十三年ニ於テ「ヨ」一千七百三十三年ニ「ヨーク」ニ於テ報告シタル物價ニ於テ報告シタル物價

	封度	志	片		封度	志	片
強麥酒、毎「ガルロン」	〇	一四	〇	強麥酒、毎「ガルロン」	〇	二	〇
弱麥酒	〇	一	〇	弱麥酒	〇	一	〇
最良葡萄酒	〇	八	〇	最良葡萄酒	〇	一七	〇
総常白酒	〇	六	〇	白「ポルト」酒	〇	八	〇
最良食牛	一	〇	八	紅「ポルト」酒	〇	六	八
中等食牛	〇	一四	〇	最良食牛	九	一〇	〇
スコッ、キロー、牛	〇	一二	〇	中等食牛	八	〇	〇

同シク牝牛	〇	一〇	〇	スコッチ、キーロー	四	四	〇
羊肉最良	〇	一	八	同シク牝牛	三	〇	〇
同シク中等羊肉	〇	一	六	最良羊	一	一〇	〇
犢肉最良	〇	二	六	中等羊肉	一	〇	〇
同シク中等犢肉	〇	一	六	最良犢肉	一	六	〇
羊仔	〇	〇	八	中等犢肉	〇	一五	〇
肥豕肉	〇	三	四	羊仔	〇	一二	〇
小豚	〇	三	〇	肥豕肉	二	一〇	〇
鷄	〇	〇	四	小豕	二	〇	〇
牝鷄	〇	〇	一四公一	鷄	〇	一〇	九
肥鵞	〇	〇	四	牡鷄	〇	〇	九
鷄ノ一種	〇	〇	一四公一	肥鵞	〇	二	〇
小鴨	〇	〇	一四公一	鷄ノ一種	〇	〇	九
鳩十二羽	〇	三	小鴨	〇	〇	九	
			鳩十二羽	〇	一	三	

右物價表ニ於テ海關税ノ殊異アルヨリ二三輸入品價直比較ノ其當ヲ得サルモノアリト缶ヒ縣シテ之レヲ確実ノ報告ト云テ可ナリ一千三百九十三年ノ物價報告表ヲ見ルニ「リチャルド」二世及ヒ諸官吏ノ「ヨーク」ニ在リシ時ニ當テ其物價ノ稍ヤ騰貴シタルヲ見ル是レ則チ郡區裁判所判事ノ法院ノ命ヲ以テ課税シタルニ源因スルナリ此ノ課税タルヤ投機者ノ連合シテ物價ヲ騰貴セシト企ツル詭計ヲ妨遏セシト欲スルノ政畧ニ出テタルモノナリ此ノ如キ投機ノ姦計ハ富財ノ尚ホ天下ニ散漫シ商人ハ其数尚ホ甚タ僅カニシテ富メルモ皆ナ狡猾ニシテ且ツ甚タ貪欲ナルカ如キ時代ニ當ッテ数〻行ハル、モノナ

リ

余輩ハ既ニ上文ニ於テ貨幣價直ノ主義ニ付テ其眞理ヲ理會スルニ十分ノ論辨ヲ盡シタレハ進ンテ貨幣ノ通商貿易ノ諸國ニ於テハ必ラス其價直ヲ平等均一ニスル所以ノ理由ト一國ニ多量ノ貨幣ヲ流通セシムルトハ其貨幣ハ忽チ其通商貿易ノ諸國ニ流出スル形狀ヲ論陳スヘシ夫レ諸國ニ於テ貨幣ノ其價直ヲ平等均一ニスル狀態ハ之レヲ実際ニ徵シテ甚タ明了ナリ喻ヘハ一千五百二十五年ニ西班牙ノ白露ヲ畧取シタル後チ金銀ノ歐洲ニ流入セシハ西班牙ヲ以テ初メトス其金銀ノ一度ニ該國ニ流入セシヤ從テ通貨ノ額數ヲ增加シタルヲ以テ忽チ西班牙國産物ハ勿論外國品ト雖モ苟モ該國内ニ使用スル物品ハ盡ク其價直ヲ騰貴シ遥ニ他國ニ於ケル物價ノ

上ニ居ルニ至レリ西班牙ニ於テ此ノ騰貴アルヤ否ヤ忽チ歐洲全土ニ於テ二樣ノ貿易ヲ繼來シ商人輩ノ奮励スル所トナリシハ是レ自然ノ常勢ナリ即チ第一ハ當時歐洲諸國及ヒ其他諸國ノ商人ニ在テハ西班牙ニ於テ物價ノ騰貴シタルヲ以テ物品ヲ該國ニ輸出スルトキハ非常ノ利益アルカ故ニ頻リニ之レヲ該國ニ輸出シ其代價ニ金銀ヲ請取リ各勉テ之レヲ其本國ニ輸入セリ第二ハ西班牙ノ商人ニ在テハ復タ其内國ニ於テ物價既ニ非常ノ高點ニ登リタルヲ以テ物品ヲ外國ヨリ輸入スルトキハ非常ノ利益アルカ故ニ頻リニ之レヲ外國ヨリ輸入シ其代價ニ金銀ヲ支拂ヒ各勉テ之レヲ外國ニ輸出セリ右二樣ノ情況ヨリシテ初メ西班牙葡萄牙ニ流入シタル金銀ハ忽チ歐洲全土ニ流延スルニ至レリ故ニ一國ニ流通スル

貨幣額数ノ萬國ト平等ノ割合ニ超過スルトキハ從テ物價必ラス騰貴ス物價騰貴スレハ又タ必ラス物品過度ノ輸入ヲ來タス物品過度ノ輸入アルトキハ人力ヲ以テ百方之レヲ限制スルモ益〻貨幣ハ外國ニ濫出シ本國通貨并ニ物品ノ價直ト鄰國通貨並ニ物品ノ價直ト平等均一スル(アトバー)ニ至ル迄ハ其勢ノ底止セサルヤ明ラカナリ夫レ貨幣ノ各國齊シク其價直ヲ平等均一ニスルハ自然ノ理由ニシテ夫ノ外國貿易ヲ輕便ナラシムルカ為メニ各國ノ間ニ互相貿易主義(ヒデプロテクトオフトレード)ノ緊要ナル所以ノモノハ蓋シ右ノ理由アルニ因ルナリ何トナレハ則チ今マ甲國アリ若干ノ物品ヲ乙國ヨリ輸入シタルニ乙國又タ右ニ齊シク同額ノ物品ヲ甲國ヨリ輸入セサルトキハ其差額大ケノ貨幣ハ必ラス甲國ヨリ輸ラレサレハ本國ニ於テハ為メニ通貨ノ缺乏ヲ來タシ理財上ノ混乱錯雜ヲ生スルニ至ルカ故ナリ是レニ由テ之レヲ觀ルトキハ各國ノ間ニ貿易ヲシテ有益輕便ナラシメント欲セハ互相主義ニ基テ各國同額ノ商品交易ヲ為サヽルヘカラス然ルトキハ則チ外國貿易上ニ於テハ甲國商賈ノ乙國ヘ貨幣ヲ拂渡スヘキ勘定アルトキハ甲國ヨリ貨幣ヲ請取ルヘキ乙國商賈ノ為換手形ヲ買收スレハ乃チ足レリトス此ノ如ク唯タ為換手形ヲ交換(ヒキカヘシテ)シ各國皆ナ貨幣ヲ運送スルヿナクシテ其勘定ヲ決算スルヲ得ヘシ然リト雖ヒ此ノ方法ヲ十分ナラシメント欲セハ輸出品及ヒ輸入品ノ額數両國ノ間ニ均一ナラサルヘカラス若シ否ラサルトキハ則チ其輸入ノ巨額ナル國ヲ目シテ貿易ノ不平均ト云フ其故何トナレハ其國ヨリ差額ヲ他國ニ拂渡スニ付テ今マ為換手形ノ之レヲ決算スヘ

キモノ其國ニ存セサレハ金貨或ハ銀貨ヲ用テ拂渡サヽルヲ得サルカ故ナリ此ノ如ク貿易ノ不平均ヨリ時アリテ生スルノ結果ニ付テハ此ノ後ニ之レヲ詳論スヘケレハ今マ此ノ處ニ於テ余輩ノ論陳スルヲ必要トスルモノハ則チ唯タ各國内ニ流通スル貨幣ノ額數ヲ節限スルノ理由ト其通商貿易スル諸國間ノ貿易ヲ支配スル簡單ナル理由トノミ

第六紙幣ヲ論ス

余輩ハ今ヽ此ノ章ニ於テ陳述スヘキ第六ノ論題即チ紙幣（キヤツシユ・ペイパー）假貨幣ノ義ノ性質及ヒ其発行ノ成果ヲ開陳シ以テ此ノ章ノ局ヲ結フヘキ適當ノ場合ニ到レリ余ノ今マ紙幣ト稱スル言語ハ則チ本体ニ價直ヲ有セサル紙片若クハ其他ノ物質ヲ以テ製造シタル「モニー」（貨幣ノ義）ヲ謂フナリ但シ此ノ物タル其本体ノ眞價ナル第一ノ價直ナシト雖ヒ其発行者ノ信用アルヨリシテ其後ニ至リテ正貨若クハ正貨ニ轉スルヲ得ヘキ有價物ヲ以テ交換スヘキモノナリト云フ第二即チ誘致ノ價直ヲ有スルモノナリ夫レ為換手形（ビル・オフ・エキスチエンヂ）ノ如キ其種類ノ如何ヲ問ハス槩シテ之レヲ紙幣ト稱スルハ言語ノ誤用（ミスユース）ナルカ如クナレヒ何レト決著ノ論ニ依レハ總テ之レヲ「モニー」（貨幣ノ義）ノ部類ニ算入スルヲ得ヘシ夫レ此ノ種ノ証券ハ其振出人ト請込人トノ保証アルカ上ニ之レヲ取引スルノ人ハ皆ナ一々其保証ヲ加フルモノナリト雖ヒ又タ自カラ諸般ノ定限アリテ能ク之レヲ遵守スルニ非サレハ諸人ノ間ニ通用スル能ハス又タ人々一般ニ通用スル「能ハサレハナリ故ニ巨額面ノ為換手形ハ之レヲ「モニー」（貨幣ノ義）ト稱スル

ヲ得ス然リト雖モ人皆ナ為換手形ノ貿易上ニ甚タ便利ナルヲ知ルヨリ逐次小額ナル約束券（プロミッソリノート）ノ発行ヲ是認スルニ至レリ抑モ此ノ小額ノ約束券ハ其受授ノ間ニ煩ハシキ定限ノ遵守スヘキモノナク従テ之レヲ取引スル人ノ一々其保証ヲ加フルヿナク請求次第其券持参人ニ正貨ヲ以テ拂渡スヘキモノニシテ又タ人々勝手ニ其券ヲ手ヨリ手ニ取引スヘキモノトス此レ是ノ流通ヲ稱シテ紙幣ノ流通ト謂フヲ以テ適當トス余輩ハ今マ此種ノ紙幣ヲ使用スルヨリシテ生スル所ノ形情ニ付開陳スル所アラントス

約束券紙幣之レヲ分テ二種トス其一ハ即チ読券持者ノ請求次第諸券発行シタル人ノ金銀貨ヲ以テ直ニ交換スヘキ約束ノモノ是ナリ乃チ貨幣同様通用スルモノニテ

之レヲ交換紙幣（コンバルチブル ペーパー マネー）ト稱ス其二ハ法律ヲ以テ貨幣同様之レヲ合法貨幣トナシ而シテ特リ其発行者ノ信用ニ基ツクノミナラス後日ニ於テモ決シテ其持者ニ損害ヲ受ケシメサルヘシトノ約束トニ基テ通用スルモノ是レナリ乃チ此レヲ不換紙幣（インコンバルチブル ペーパー マネー）ト稱ス夫レ何レノ國民ヲ問ハス今マ正貨ノ代用トシテ此等ノ紙幣殊ニ不換紙幣ヲ使用スルトキハ総テ其信用ヲ置クニ足ラサルモノニ似タレトモ人常ニ疑ハスシテ読二種ノ紙幣ヲ取引スル所以ノモノハ他ナシ彼レ固ヨリ信用ヲ其発行者ニ置カサルモノカキニアラスト雖モ又タ世間皆ナ其紙幣ヲ請取ル人ハ之レヲ以テ其負債ノ償還若シクハ物品ノ代價トシテ故障ナク他人ニ拂渡スヲ得ヘシト云フ確乎タル其信用ノ慣習アルニ由ルモノ多キニ居ルナリ故ニ各人ノ間ニ右ノ如キ

信用アルニアラサレハ其発行者ノ各個人ナルト政府ナルトヲ問ハス決シテ其紙幣ヲ世間ニ通用セシムルヿ能ハサルヘキヤ明ラカナリ槩シテ之レヲ言フハ人決シテ蓄積ノ為メニ紙幣ヲ取引セス又タ勿論其額数ノ多少ヲ問ハス悠久コレヲ貯ヘ置クモノナシ而シテ唯タ人ノ紙幣ヲ信用スル所以ノモノハ獨リ其間断ナキ一般ノ通用ニ在ルノミナリ抑モ斯ノ如キ信用ノ基礎タル極メテ危険ナルハ赫トシテ其レ明ラカナリ然ルニ此ノ如キ危険無根ノモノニシテ都合能ク世間ニ行ナハレ久シク流布スルコトアルハ適〻以テ人間ノ浅見ヲ表スルニ非サレハ目前一時ノ小利ノ為メニ良心ヲ犠牲ニスルノ軽躁ナルヲ證スルニ足ルノミ

紙幣ヲ以テ金銀貨幣ノ流通高ニ増加スルノトキニ當テ自カラ発生スル顕像ヲ考究スルニ其第一ニ観察スヘキ点ハ即チ此ノ増加紙幣ノ信用ヲ維持スル間ハ此ノ増加ノ影響タルヤ此レト同額ノ金貨幣ヲ増加シタルト一様ノ顕像ヲ生スヘキコト是レナリ、是レ則チ其紙幣ノ信用ヲ世間ニ保存スル内ハ其交換紙幣ナルト不換紙幣ナルトヲ問ハス猶ホ貨幣ト同一ノ影響ヲ生ス即チ其影響ハ金銀貨幣紙幣価格ノ総下落ト其下落ニ従テ生スル物價ノ騰貴是ナリ然リト雖ヒ既ニ物價ノ総騰貴アルトハ従テ必ラス非常ニ物品ノ輸入額ヲ増加スルニ至ル而シテ過度輸入ノ紙幣上ニ影響スルヤ数〻非常ノ損害ヲ惹起スモノナリ、其損害タルヤ不換紙幣ヨリモ交換紙幣ニ甚シトス而シテ其交換紙幣ニ危険多キ所以ノモノハ則チ左ノ理由ニ因ルナリ今マ斯ニ人アリテ紙幣ヲ発行セシニ

其代リニ金若クハ銀ヲ得ル能ハサルナリ若シ果シテ其紙幣ノ代リニ金若クハ銀ヲ得ルトスルトキハ其発行ハ何人ノ利益ニモナラス又タ便益トモナラサルヘシ喩ヘハ金銀ヲ銀行ノ金庫ニ收メ其代リニ紙幣ヲ得ルカ如キハ直接ニ銀行主ノ利トモナラサレハ又タ其主顧ノ利トモナラサルナリ或ハ銀行主ノ利トナルコアルトスルモ當時世情ノ如何ヲ問ハス決シテ主顧ヲ利スルコトハアラサルナリ故ニ発行者其紙幣ヲ世間ニ流通セシメント欲セハ此レヲ以テ商人ノ為メ為換手形ヲ割引スル乎或ハ租税院手形（エキスチエツカー、ビル）若シクハ各種ノ政府証券（ゴヴアルンメント、セキリチ）ヲ抵當トシテ此レヲ政府ニ貸渡サヽルヘカラス、夫レ此ノ尋常通例ノ方法ニ従テ紙幣ヲ発行スルモ猶ホ銀行者ハ後日交換ノ要請ヲ受クルニ當テ請求次第其発行紙幣悉皆ヲ以テ其需用ニ應シ盡ク之レヲ交換スルニ十分ナル金銀貨幣ヲ準備スル能ハサルハ勿論ノコトナリ何トナレハ其準備ノ金銀ヲ置キ而シテ紙幣ノ信用ヲ世間ニ保存センニハ尚ホ矢張リ紙幣ヲ発行セサルヘカラサルノミナラス其益金ヲ失ヒスルカ或ハ減縮スヘキ程ノ費用ニ陥ラサルヲ得サレハナリ是レ其発行セシ紙幣タルヤ若シ金若クハ銀ヲ以テ請求次第拂ハルヘキモノタルトキハ即チ交換紙幣タルトキハ発行者ハ其交換ノ為メニ準備セシ正貨ノ金額ヨリモ取付ニ来タル紙幣ノ多額ヲ常ニ引受ケサルヘカラサルノ危険ニ遭遇セサルヲ得サルカ故ナリ而シテ此ノ危険タルヤ過度輸入ヨリ生スルコト少ナカラス何トナレハ貿易権衡ノ甲國ニ不平均スルトキハ其差額ヲ拂フ為メ金銀ヲ輸出セサルヲ得ス而シテ此ノ金銀ハ何レノ処

ヨリ得ン乎銀行ニ行キ其紙幣ト交換スルノ外別ニ良策アラサルヘシ既ニ久シク斯ノ如ク持續スルトハ必ラス銀行ノ事業停止ヲ惹起スルヤ其レ明ラカナリ此理ニ由テ別ニ因縁ノアルニ非サレハ金若クハ銀ヲ以テ交換スヘキ約束ノ紙幣ハ其発行上密ニ注意スルニ非サレハ且ツ銘面巨額ノ紙幣上ニ注意シ其発行ヲ慎マサレハ必ラス大ニ通貨ノ総額ヲ増シ為メニ該紙幣ノ自滅スルノミナラス貨幣巨大ノ輸出ヲ惹起シ到底該國ヲシテ通用貨幣其跡ヲ絶ツノ國トナスニ至ラシムルヤモ亦タ計リ難シ

不換紙幣ノ発行ニ付テ生スル危険ハ右ニ開陳シタル交換紙幣上ニ生スルカ如キ種類ノ危険ニハ非ラサルナリ然リト雖モ其影響ハ則チ其國ノ通貨ノ額数ヲ非常ニ増加シ忽チ物價ノ騰貴ヲ生シ従テ貿易ノ権衡ヲ失ヒ過度ノ輸入ヲ惹起シ金銀ハ外國ニ溢出シ之レニ代リテ不換紙幣内國ニ流通スヘケレハ此レカ為メ其紙幣上ニ生スル危害ノ度ニ至リテハ交換紙幣ト毫モ異ナルヿナシ其危害タルヤ則チ金貨國内ニ缺乏スルトハ貿易不平均ノ差額ヲ外國ニ致スヘキ人ハ金貨ヲ得ルニ非常ノ割増（プレミアム）ヲ出サヽルヲ得ス既ニ金貨ニ割増ヲ生スルトハ勿論紙幣上ニ巨大ノ割引（デスカウント）ヲ生スヘキヤ明ラカナリ而シテ其割引ノ既ニ非常ノ度ニ達スルトハ人民皆ナ危懼周章其紙幣ヲ信用セサレハ其紙幣ノ能力終ニ地ニ落テ世間復々之レヲ取引スルモノナキニ至ルヘシ然リト雖モ不換紙幣ノ流通ニ付テハ貨幣竭尽ノ源由アルハ尚ホ右ニ止マラサルモノアルヲ見ルナリ是レ余輩ノ今マ斯ニ之レヲ開

陳スルヲ適當ナリト信スル所ナリ夫レ貨幣竭盡ノ情況タルヤ巨額ノ紙幣内國ニ流通シ為メニ非常ノ割引ヲナスニアラサレハ銀行ニ於テ之レヲ金銀ト交換スル能ハサル片ハ必ラス金銀塊ノ價直ヲ騰貴スルハ勿論ナリ又タ外國ニ當テ振出シタル為換手形ノ價格ヲ騰貴シ從テ又タ其不換紙幣ノ流通スル國ニ當テ振出シタル外國為換手形ノ價直ノ下落ヲ惹起スヤ疑ヲ容ルヘカラス其然ル所以ノモノハ即チ左ノ理由ニ因ルナリ第一金銀塊ノ騰貴スル所以ハ當時貨幣既ニ缺乏ナルカ故ニ之レヲ得ント欲スルモ能ハサルヨリ貿易ノ差額ヲ拂ハンカ為メ金銀ヲ要スル人ハ已ムヲ得ス之レヲ金銀塊ニ求メサルヲ得ス第二外國當テニ振出シタル為換手形ノ騰貴スルモノハ則チ他ナシ其為換手形タルヤ外國ニ於ケル金銀ヲ支配スルモノナリ而ルニ之レヲ買フ人ハ皆ナ拂フニ流通紙幣ヲ以テスルカ故ニ該為換券持主ハ其手形面ノ金額ヲ其當テタル外國ノ地ニテ買フヲ得ヘキ程ノ流通紙幣ヲ要スルカ故ナリ第三本國當テノ外國ヨリ振出シタル為換手形價直ノ下落スル所以ノモノハ其為換手形ノ當テラルヽ國ニ於テハ金銀價格ノ非常ニ騰貴シ而シテ外國人ハ其國ニ於テ唯タ下落紙幣ノ買ヒ得ヘキ額數ノ金塊ヲ拂渡セハ可ナルヲ以テ必ラス金銀塊ヲ送ルニ由リ其為換券ヲ買フ人稀ナルカ故ナリ若シ果シテ一國ノ此ノ如キ情況ヲ顯ハストキハ其國ノ貨幣持者ハ必ラス其貨幣ヲ鎔解シ金銀地金トシテ之レヲ賣ル乎若シクハ金銀地金或ハ貨幣ノ俵ニテ之レヲ外國ニ送リ外國品及ヒ外國為換手形ヲ買フヘシ何トナレハ本國ニ於テ貨幣

トシテ使用スルハ損失ニシテ其國ニ於テ貨幣ノ買品力ハ紙幣ト同一ナリト信スルカ故ナリ此ノ理タルヤ固ヨリ覩易キノ理タルヲ以テ心ラス貨幣ハ鎔金鑵中ニ入ルニアラサレハ外國ニ濫出スヘシ事物ノ情勢既ニ此ノ如キニ至ルトキハ其影響ハ貿易ヲ停止シ全ク紙幣ノ信ヲ世間ニ失フノ危害ヲ来タスヤ疑ヲ容レサルナリ余ハ此ノ後ヲ段々章ヲ逐テ英國ニ於ケル二十二年間不換紙幣ヲ維持シタルコトアルヲ論陳スヘシ而シテ又タ其二十二年間不換紙幣ヲ維持シタルハ特リ一種非常ノ情況アリシニ因リシコトヲ詳説スヘキナリ

夫レ通貨ニ付テ差當リ此ノ書ニ要スル所ノ其主義ヲ理會スルニハ以上ノ論説ヲ以テ十分ナリトス乃チ一般ニ簡畧ニ萬物價直ノ源由及ヒ特ニ貨幣價直ノ源由ヲ開陳シ又タ特ニ貨幣ヲ以テ價直ノ秤量トスル所以ノ理由ヲ説キ又タ貨幣ノ自然ニ世界中ニ分賦スルノ方法ト通商貿易ノ諸國ニ於テ其價直ヲ平等均一スル性質アルヲ説キ又タ紙幣ヲ以テ真價ヲ有スル金銀貨幣ト肩ヲ並ヘ競アテ通用セシムルニ當テ発生スヘキ顕像ヲ説明セリ此ノ如ク條節ヲ別チ詳論シタレハ簡ニ「モニー」貨幣ノ義ト稱スルモノヽ論題ニ付テハ十分盡シタリト信スルナリ然リ而シテ紙幣ノ種々ナル弊害危険ニ至リテハ尚ホ他ニ論スヘキモノアリト雖モ之レヲ後編ニ譲リ第三章ニ於テハ所謂ル國債(ナショナル・デット)及ヒ資金(ファンド)(按ニ資金即チ國債ナリ故ニ以下直ニ國債ト譯ス)ト稱スルモノヽ性質ヲ考究セサルヲ得ス故ニ今マ正ニ此ノ論題ニ入ラント欲スルナリ然リト雖モ余ハ今マ次章ニ進行スルニ先シテ讀者ノ銘

記セシメサルヘカラサル一條目アリ即チ通貨ナル名稱ヲ負ヒ以テ各個人ノ間ニ手ヨリ手ニ傳ヘテ實際流通スル貨幣ト財本ノ名稱ヲ負ヒ以テ價格アル各種抵當物ノ姿即チ預ケ置キタル正貨ノ姿ニテ各個人ノ貯藏スル所トナリテ実際流通ノ姿ナキ貨幣トノ間ノ區別則チ是レナリ夫レ物價ニ影響スルモノハ特リ世ニ派遣スル所ノ貨幣ノミニシテ貯藏貨幣ハ決シテ物價ニ影響スルモノニ非サルヲ銘記スヘシ其理由ヨリシテ通貨ハ其國ノ使用ニ十分ナラサルニ巨額ノ財本即チ貯藏金ノ其國内ニ存在スルコトアリ一二ノ源由ヨリシテ財主其財本ヲ工業貿易等ニ卸ス能ハサルノ國ニ於テハ必ラス右ノ情況アルヲ免レス喩ヘハ過度ノ收税ヲ為ス國ノ如キ其税ヲ收ムルノ後チ流通スル貨幣ノ殘額ハ甚タ少ナクシテ人民ノ其日用品ヲ買フモ商賈ヲシテ其利潤ヲ得セシムル能ハサルニ至ルヘシ若シ果シテ一國ノ情況此ノ極ニ至ルトキハ財主ハ益〻其貨幣ヲ貿易農業ニ卸サスシテ愈〻之レヲ貯藏スルコトトナルヘシ右ノ如キノ情況ヨリ初テ余輩ハ其國ニ表裏ノ姿アルヲ見ルナリ其表裏ノ姿トハ何ソヤ即チ日々餘財ヲ蓄財者及ヒ高利貸者ノ子ニ牢握スルニ從テ國ハ貧弱ノ姿ヲ顕ハシ世間益〻通貨ノ缺乏ヲ告クルモノ是レナリ現今英國ノ如キハ此ノ狀況アルヲ知ルナリ何レノ國ヲ問ハス其國債ノ利息ト常歲入ノ為メニ人民膏血ノ大半ヲ占奪サレ其人民ニ殘ルモノハ其日用ノ物品ト雖ヒ猶ホ且ツ之レニ正當ノ價直ヲ拂フニ不足ナルニ至ルトキハ必ラス右ノ狀況ヲ免レサルナリ

余輩ハ右ニ開陳シタル通貨ト財本トノ區別ヲ心裏銘記シテ國民ノ名ヲ以テ募集シタル政府負債ノ主義ニ進行シ其性質及ヒ顕像ヲ陳述スヘシ

第二章終